

田原本町文化財 調査年報 14

2004年度



田原本町教育委員会

例　言

1. 本書は、田原本町教育委員会が2004年度（平成16年度）に実施した文化財事業の概要をまとめたものである。
2. 本書は、これまで刊行してきた発掘調査の略報をまとめた「田原本町埋蔵文化財調査年報」1～13を一新し、発掘調査以外の文化財事業についても項目を増やした。このため、発掘調査以外の文化財事業については、平成16年度以前の重要なものの、あるいは継続的なものについては掲載するようにした。書物の名称は「田原本町文化財年報」と改名したが、シリーズ番号は「14」として継続させた。
3. 発掘調査ならびに唐古・鍵考古学ミュージアムの展示、本書の執筆に当たって、下記の方々・機関からご指導・ご教示・ご協力を賜った。また、発掘調査では本文第7表に示すように土地所有者、施工業者ならびに近隣の皆様にご協力とご理解を賜った。記して感謝いたします。

石野博信・今村峯雄・浦西勉・江野朋子・勝部明生・神田雅章・工楽普通・小林謙一・櫻井久之・佐藤大・谷昭男・塚本善章・塚本敏夫・寺澤薰・戸田秀典・春成秀爾・樋口隆康・光石鳴巳・森浩・森田稔・(故)吉田文之・吉田明比古の諸氏
奈良国立博物館・奈良県立橿原考古学研究所・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・
国立歴史民俗博物館・財団法人 元興寺文化財研究所・(株)乃村工藝社
4. 本書の執筆は、I.1.を奥谷知日朗、I.2.を各調査担当者、IV.は目次に記したが、各関係者から玉稿を賜った。それ以外を河森一浩・藤田三郎が執筆し編集した。

目 次

I. 田原本町の埋蔵文化財

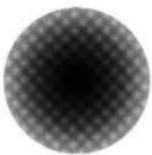
1. 町内における開発と遺跡の異動	
(1) 町内における開発と発掘調査	1
(2) 遺跡の異動	3
2. 埋蔵文化財の調査	
(1) 発掘調査の概要	6
唐古・鍵遺跡 第98次調査	9
Column 1 竪穴住居跡を復元する	10
Column 2 伊勢湾沿岸地域から運ばれた甕	11
唐古・鍵遺跡 第99次調査	12
Column 3 弧帯文が描かれた器台	13
唐古・鍵遺跡 第100次調査	14
笹鉢山1号墳 第5次調査	15
十六面・薬王寺遺跡 第21次調査	16
Column 4 墓苔がある山茶塊	17
十六面・薬王寺遺跡 第22次調査	18
薬王寺東遺跡 第3次調査	19
筋道遺跡 第1次調査	20
宮古北遺跡 第14次調査	21
保津・宮古遺跡 第33次調査	22
保津環濠遺跡 第1次調査	23
秦庄遺跡 第4次調査	24
秦楽寺遺跡 第1次調査	25
日光寺推定地 第5次調査	26
千代遺跡 第5次調査	27
阪手北遺跡 第4次調査	28
羽子田遺跡 第28次調査	29
寺内町遺跡 第9次調査	30
(2) 試掘調査と工事立会の概要	31
阪手遺跡 試掘調査	32

唐古・鍵遺跡 工事立会	34
宮古北遺跡（新規 宮古前遺跡）工事立会	35
3. 唐古・鍵遺跡調査検討委員会	
(1) 委員会の目的	36
(2) 調査検討委員会 2004年度委員	36
(3) 2003・2004年度 調査検討委員会の実施内容	36
II. 普及・啓発活動	
1. 現地説明会	37
2. 史跡の公有化と遺跡の整備	39
3. 講座	
(1) 考古学実践講座	40
(2) 考古学実践講座 公開講座	41
(3) 親子発掘体験	41
4. 研究活動	42
5. 資料の保存と管理	
(1) 重要文化財「埴輪 牛」の保存修理	42
(2) 木製品の保存処理	43
6. 写真資料のデジタル化と情報検索システム	
(1) 発掘調査記録及び出土品の写真のデジタル化	44
(2) 出土遺物の写真撮影	44
(3) 情報検索システムの構築	44
7. 資料の活用	
(1) 資料の貸出	45
(2) 資料の継続貸出	46
(3) 掲載許可資料	47
8. 資料の製作	48
9. 刊行物一覧	49
10. ボランティア組織	
(1) 設立の趣旨	49
(2) 主な活動内容	49
(3) 平成16年度の活動内容	50

III. 唐古・鍵考古学ミュージアム	
1. 施設の概要	
(1) 田原本青垣生涯学習センターの概要	55
(2) 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要	55
2. 開館に至る経緯と名称	
(1) 開館に至る経緯と経過	57
(2) ミュージアムの名称	57
3. 利用案内	58
4. 展示	
(1) 展示の方針	59
(2) 展示室の概要	60
5. ホームページ	67
6. 入館者	
(1) 平成16年度入館者数	68
(2) 研修での利用	68
(3) 小学校・中学校などでの利用	69
(4) 入館者アンケート	69
7. 展示ボランティアガイド	
(1) ガイド実績	70
(2) 研修会・ガイドミーティング	70
(3) ガイドマニュアルの作成	70
(附編) 条例	
田原本青垣生涯学習センター条例	71
唐古・鍵考古学ミュージアム管理規則	73

IV. 資料の紹介・報告	
1. 資料の紹介	
多遺跡出土の有茎尖頭器（光石鳴巳）	81
唐古・鍵遺跡出土の鹿を描いた土器（藤田三郎）	85
笠形採集の和同開珎（河森一浩）	91
2. 資料の分析	
唐古・鍵、清水風遺跡出土の ¹⁴ C測定土器の所見（藤田三郎）	97

唐古・鍵遺跡検出の大型建物跡と年代測定試料（豆谷和之）	115
唐古・鍵遺跡、清水嵐遺跡出土試料の ¹⁴ C年代測定 (小林謙一・春成秀爾・今村峯雄・坂本稔・尾寄大真・新免歳靖・松崎浩之・ 中村俊夫・藤田三郎)	123
奈良県唐古・鍵遺跡出土大型建物柱根の炭素14年代測定 (坂本稔・小林謙一・新免歳靖・春成秀爾・中村俊夫・豆谷和之)	139
3. 資料の保存・修理報告 重要文化財 羽子田遺跡出土牛形埴輪の保存修理（江野朋子・川本耕三・塙本敏夫）	149



I. 田原本町の埋蔵文化財

1. 町内における開発と遺跡の異動

(1) 町内における開発と発掘調査

本町における2004年度（平成16年度）の埋蔵文化財発掘届および通知は63件である。このうち民間の開発行為等による発掘届は45件、公共団体等による発掘通知は18件を数える。過去14年間における発掘届（通知）件数の推移をみると緩やかに増加している。今年度もその傾向線上にあるとみられ、発掘届が最も多くなっている。

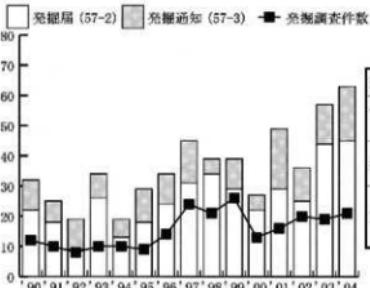
今年度、町内における発掘調査は21件である。このうち当町教育委員会が実施した発掘調査は18件で、その内訳は公共事業に伴うもの4件、民間の開発に伴うもの4件（うち重要遺跡認定に基づく調査1件）、個人住宅の建築に伴うもの8件、範囲（内容）確認が2件である。範囲（内容）確認調査は、唐古・鍵遺跡と笹鉢山1号墳でそれぞれ実施した。

第1表 田原本町における2004年度の発掘届および発掘通知件数 単位=件

	発掘届 57条の2	発掘通知 57条の3		発掘調査	工事立会	慎重工事
2004年度 (平成16年度)	45 (うち変更届1)	18	通知内容	20	34	9
			実施分	町19（うち試掘1） 県3	27	-

第2表 田原本町における埋蔵文化財発掘届（通知）および発掘調査件数の経年変化 単位=件

	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04
発掘届（57-2）	22	18	9	26	13	18	24	31	34	29	22	29	25	44	45
発掘通知（57-3）	10	7	10	8	6	11	10	14	5	10	5	20	11	13	18
計	32	25	19	34	19	29	34	45	39	39	27	49	36	57	63
調査件数	町	12	8	7	9	7	8	14	22	21	24	12	15	19	18
	県	0	2	1	1	3	1	0	2	0	2	1	1	1	3
計	12	10	8	10	10	9	14	24	21	26	13	16	20	19	21



第3表 2004年度 他機関による町内の発掘調査一覧表

遺跡名	調査次数	調査地	原因	調査面積	調査機関
保津・宮古	第32次	田原本町 宮古61番1	ため池の 改修	270m ²	奈良県立橿原 考古学研究所
秦庄	第5次	田原本町 宮森	県道の拡幅	170m ²	奈良県立橿原 考古学研究所
東井上	第1次	田原本町 東井上61番 2他	農業用水 路の改修	411m ²	奈良県立橿原 考古学研究所 (司職員派遣)

発掘調査件数は、1990年代後半から発掘届件数に比例してやや増加し、その後20件前後で横這いになる。近年の発掘調査件数の増加の要因としては、1. 唐古・鍵遺跡等における範囲(内容)確認調査の実施、2. 個人住宅の建築に伴う事前調査がある。2.に関しては、1995年の阪神・淡路大震災以降、建物基礎にバイル打ちや地盤改良工法が伴うことが多くなった。これに伴い個人住宅による発掘調査件数が増え、近年では調査件数の約半数を数えるに至っている。

個人住宅の建築に伴う発掘調査は、調査面積が100m²以下で調査日数も1~3日で終わるものも多い。このため、1件あたりの発掘調査面積も年々減少傾向にある。特に近年では、調査面積が100m²以下の調査(個人住宅等)と、200m²以上の調査(範囲確認・民間開発等)という、発掘調査の二極化が進んでいる。

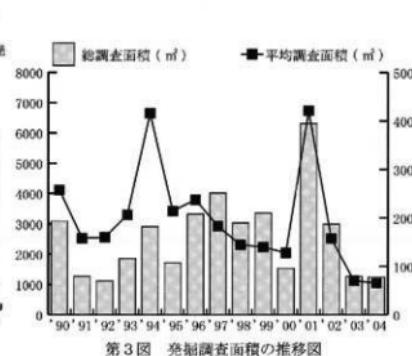
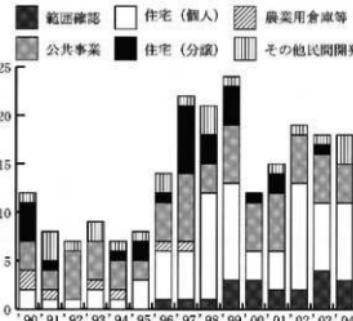
第4表 町教育委員会が実施した発掘調査の調査原因別の経年変化

単位=件

調査原因	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04
範囲確認	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	3	2	2	4	3
住宅(個人)	2	1	1	2	1	3	5	5	11	10	3	4	11	7	8
農業用倉庫等	2	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
公共事業	3	2	5	4	3	2	4	7	3	6	5	6	5	5	4
住宅(分譲)	4	1	0	0	1	2	1	7	3	4	1	2	0	1	0
その他民間開発	1	3	1	2	1	1	2	1	3	1	0	1	1	1	3
計	12	8	7	9	7	8	14	22	21	24	12	15	19	18	18

第5表 町教育委員会による発掘調査の面積と出土遺物数の経年変化

	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04
総調査面積(m ²)	3091	1266	1118	2015	2910	1715	3328	4020	3034	3356	1535	6314	3008	1263	1235
平均調査面積(m ²)	257	158	159	206	415	214	237	182	144	139	127	420	157	70	69
出土遺物数(箱)	691	626	529	537	124	947	1234	551	1337	730	799	354	785	532	314



(2) 遺跡の異動

本町における「奈良県遺跡地図」第3版（平成9年度版）からの遺跡の異動は37件である。異動の半数以上は、埋没古墳の確認と遺跡の記載事項の訂正である。以下、新規確認と遺跡範囲の変更を中心に異動の概略を述べる。

唐古・鍵遺跡（24） 遺跡南西端で実施した第95・99次調査および2000年度の工事立会において環濠を検出した。また、遺跡南側の第100次調査で布留期の溝等を検出した。このため、遺跡範囲が南へ80m拡大することが判明した。

唐古・鍵古墳群（14～23） 近年の唐古・鍵遺跡の調査では、弥生集落の廃絶後も重複して古墳群が形成されたことが判明している。また、過去に実施した調査の再整理を行ったところ、唐古・鍵遺跡内において古墳時代前期～後期の古墳10基を確認した。これらを唐古・鍵古墳群として認識し、唐古・鍵1～10号墳として遺跡の新規認定を行った。

唐古南氏居館跡推定地（25） 本居館推定地の北側で実施した唐古・鍵遺跡第42・85次調査と、推定地東側の第84次調査で中世の大溝や土坑を検出した。このことから、同推定地の範囲を北側および東側に拡大する必要が生じた。

八尾九原遺跡（26） 遺跡南側に位置する笹鉢山1号墳の調査で古墳築造以前の弥生時代の遺構を確認したため、遺跡範囲を南側へ150m拡大させた。

宮古前遺跡（27）／宮古北遺跡（28） 2003・2004年度に宮古共同墓地の南側で行った工事立会で古墳時代と中世の遺構を新たに確認した。中世遺構は、屋敷地と想定されることから、この一区画を宮古北遺跡から分離し、周辺小字名から「宮古前遺跡」として範囲を特定した。

保津・宮古遺跡（3）／宮古北遺跡（4）／富本遺跡（6） 保津・宮古遺跡第29次調査および宮古北遺跡第13次調査で、谷地形と断続した微高地上に立地する古墳時代の遺構を確認した。これらの遺構は標記各遺跡の末端部と考えられる。よって、保津・宮古遺跡を西側へ、宮古北遺跡を南側へ、富本遺跡を南東側へそれぞれ拡大させた。

小阪里中遺跡（31）／小阪里中古墳群（34～36） 2000年度に小阪里中遺跡の北側で実施した工事立会では、弥生時代の落ち込みや古墳周濠等を確認した。このことから、小阪里中遺跡の範囲を北側へ拡大し、新規確認した古墳3基を小阪里中3～5号墳として認定した。

阪手東遺跡（1） 第2次調査では南東～北西方向の微高地上に展開する弥生時代中期の方形周溝墓群を検出した。このことから、遺跡の範囲は北西側と南東側に拡大した。

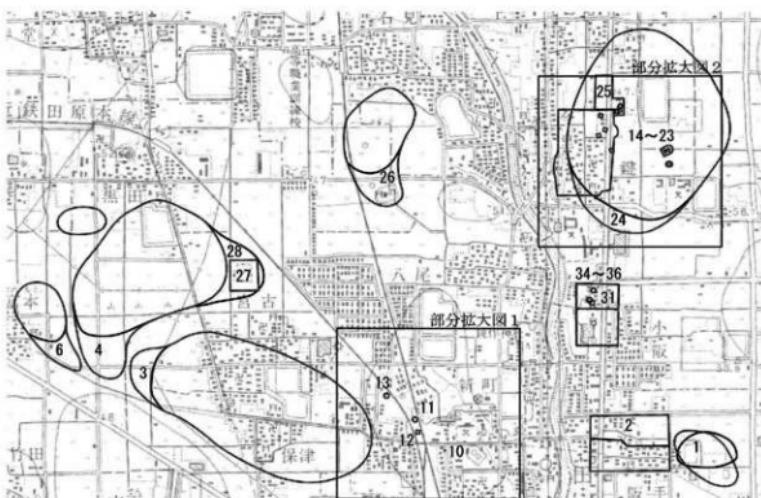
羽子田古墳群（10～13） 保津・宮古遺跡第13・26次調査および羽子田遺跡第9・10・14次調査で古墳時代前～後期の前方後円墳、円墳、方墳を確認した。これらを羽子田12～15号墳として新規認定を行った。

秦庄遺跡（7、37） 遺跡北東端で実施した第3次調査では、古墳時代中後期の濃密な遺構分布が認められた。また、遺跡の南東端で実施した第1・5次調査および工事立会（第5次と工事立会は権原考古学研究所による）では、弥生時代後期の河道等を確認した。これらの調査成果から、遺跡の範囲を北東側および南東側に拡大した。

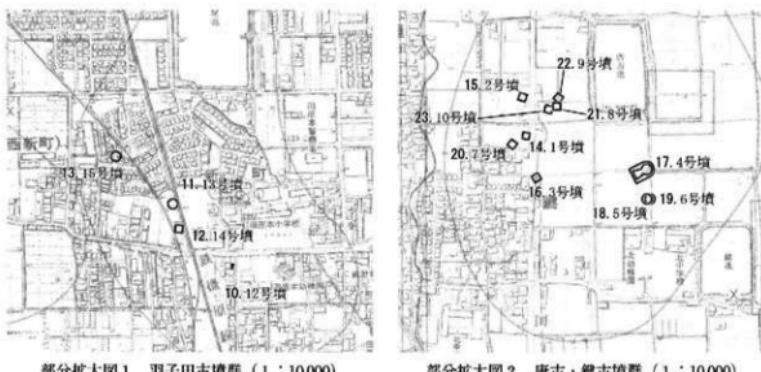
味間西遺跡（5） 周知の遺跡範囲外であった味間集落西側で行われた工事で発見された遺跡である。工事現場では中世の諸造構を確認し、土師器・瓦器・青磁等が採集された。このため、本地周辺を「味間西遺跡」として遺跡の新規認定を行った。

第6表 田原本町内における遺跡の異動一覧（平成14年4月～17年3月分）

	遺跡名	異動内容	報告	通知	通知日
1	阪手東遺跡	範囲変更	田教文 第28号	教文 第320-4号	H14. 4. 22
2	阪手北遺跡	範囲拡大	田教文 第29号	教文 第320-5号	△
3	保津・宮古遺跡	△	田教文 第30号	教文 第320-6号	△
4	宮古北遺跡	△	田教文 第31号	教文 第320-7号	△
5	味間西遺跡	新規確認	田教文 第32号	教文 第320-8号	△
6	富木遺跡	範囲拡大	田教文 第121号	教文 第320-3号	H15. 6. 23
7	秦庄遺跡	△	田教文 第122号	教文 第320-4号	H15. 6. 24
8	羽子田1号墳	訂正・追加	田教文 第333-1号	教文 第7788号	H17. 1. 28
9	羽子田11号墳	△	田教文 第333-2号	教文 第7789号	△
10	羽子田12号墳	新規確認	田教文 第333-3号	教文 第7790号	△
11	羽子田13号墳	△	田教文 第333-4号	教文 第7791号	△
12	羽子田14号墳	△	田教文 第333-5号	教文 第7792号	△
13	羽子田H15号墳	△	田教文 第333-6号	教文 第7793号	△
14	唐古・鍵1号墳	△	田教文 第333-7号	教文 第7794号	△
15	唐古・鍵2号墳	△	田教文 第333-8号	教文 第7795号	△
16	唐古・鍵3号墳	△	田教文 第333-9号	教文 第7796号	△
17	唐古・鍵4号墳	△	田教文 第333-10号	教文 第7797号	△
18	唐古・鍵5号墳	△	田教文 第333-11号	教文 第7798号	△
19	唐古・鍵6号墳	△	田教文 第333-12号	教文 第7799号	△
20	唐古・鍵7号墳	△	田教文 第333-13号	教文 第7800号	△
21	唐古・鍵8号墳	△	田教文 第333-14号	教文 第7801号	△
22	唐古・鍵9号墳	△	田教文 第333-15号	教文 第7802号	△
23	唐古・鍵10号墳	△	田教文 第333-16号	教文 第7803号	△
24	唐古・鍵遺跡	範囲拡大	田教文 第333-17号	教文 第7804号	△
25	唐古南氏居館跡推定地	△	田教文 第333-18号	教文 第7805号	△
26	八尾九原遺跡	△	田教文 第333-19号	教文 第7806号	H17. 2. 2
27	宮古浦遺跡	新規確認	田教文 第333-20号	教文 第7807号	△
28	宮古北遺跡	範囲縮小	△	教文 第7808号	△
29	阪手仁王前遺跡	訂正・追加	田教文 第333-21号	教文 第7809号	△
30	伊与戸遺跡	△	田教文 第333-22号	教文 第7810号	△
31	小阪里巾遺跡	範囲拡大	田教文 第333-23号	教文 第7811号	△
32	小阪里巾1号墳	訂正	田教文 第333-24号	教文 第7819号	△
33	小阪里巾2号墳	△	田教文 第333-25号	教文 第7812号	△
34	小阪里巾3号墳	新規確認	田教文 第333-26号	教文 第7813号	△
35	小阪里巾4号墳	△	田教文 第333-27号	教文 第7814号	△
36	小阪里巾5号墳	△	田教文 第333-28号	教文 第7815号	△
37	秦庄遺跡	範囲拡大	考 研 第5号-2	教文 第7174号	H17. 3. 24



第4図 田原本町北部における遺跡範囲の異動 (1 : 20,000) ※数字は第6表に対応



部分拡大図1 羽子田古墳群 (1 : 10,000)

部分拡大図2 唐古・鍵古墳群 (1 : 10,000)



第5図 田原本町南部における遺跡範囲の異動 (1 : 20,000)

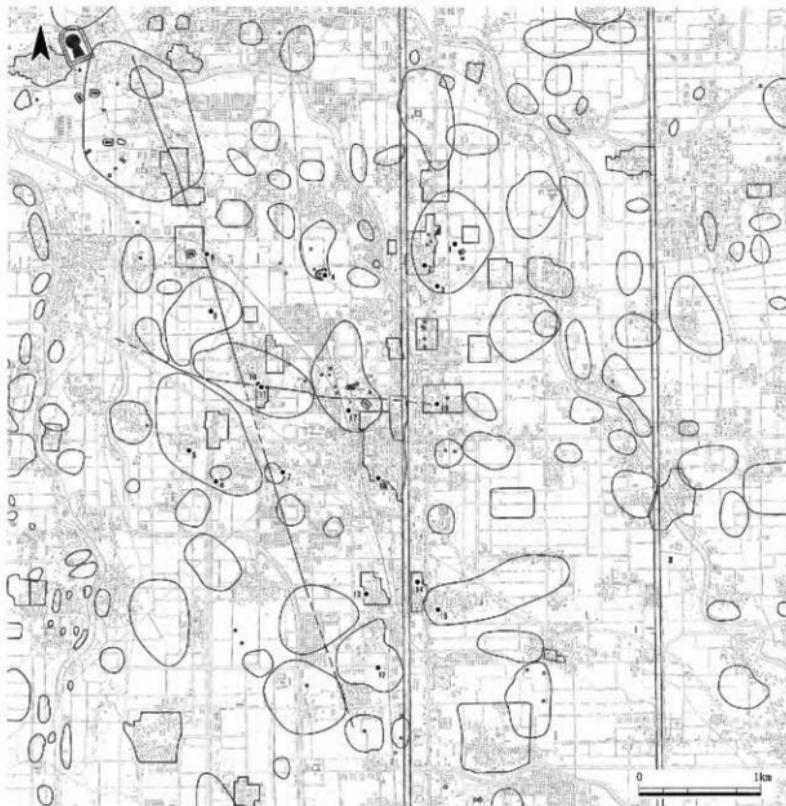
2. 埋蔵文化財の調査

(1) 発掘調査の概要

本年度、当町が実施した発掘調査は18件である。以下、時代ごとに概略を述べる。

弥生時代～古墳時代 今年度に唐古・鍵遺跡で実施した調査は3件で、当遺跡の調査次数も100次を数えることとなった。平成8年度から始まった10カ年計画の遺跡範囲（内容）確認調査も今年度で終了し、日下、来年度に刊行予定の発掘調査報告書の作成作業を進めている。

内容確認調査である第98次調査は遺跡のほぼ中央で実施した。遺跡中央部の様相を把握する上で重要な調査である。第99次調査は鍵集落内で実施した緊急調査、第100次調査は遺跡南側で実施した重要遺跡認定に基づく範囲確認調査である。これらの調査では遺跡の範囲外で遺構を



第6図 田原本町の遺跡と調査地点

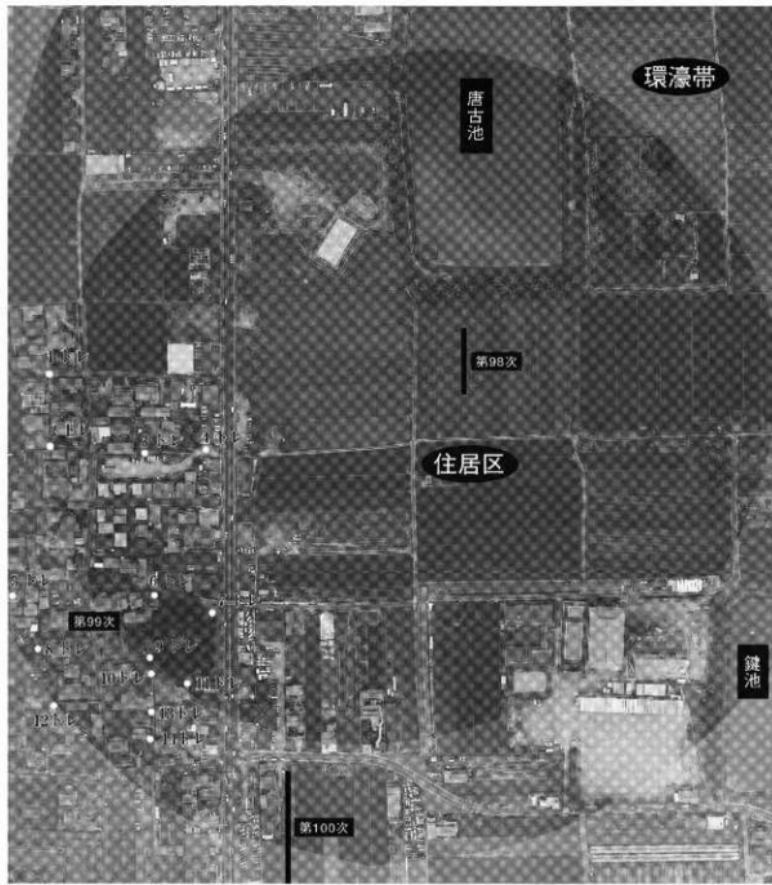
検出したため、当遺跡を南側に約80m拡大することとなった。

古墳時代の調査では、笹鉢山1号墳で範囲確認調査を実施した。調査では、墳形の手掛けかりを得たが確定するには至っていない。さらなる調査の積み重ねが必要である。この他、十六面・薬王寺遺跡で当時期の遺構を検出している。

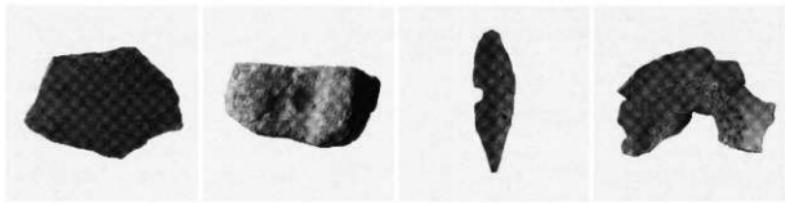
古代・中世・近世 古代に整備されたと考えられる筋道の調査を大字黒田で実施し、溝状遺構を検出した。この遺構は道路側溝としては幅が広く、周辺調査が必要である。中世では、十六面・薬王寺遺跡、保津環濠遺跡、秦楽寺遺跡、日光寺推定地、阪手北遺跡で、濃密な遺構分布が認められた。また、近世では寺内町遺跡、千代遺跡、唐古・鍵遺跡第99次調査で多数の遺構を検出している。これら中近世の調査は、これまでの調査結果を追認するものである。

第7表 2004年度 発掘調査・観察

	遺跡名	調査回数	調査地	原因者	原因	調査期間	調査面積	時期	調査担当	備考
1	唐古・鍵	第98次	田原本町鍵 238番1	田原本町	内容確認	2004.7.6 ～10.23	253m ²	弥生・中世・ 近世	豆谷和之 梶谷知日朗	国庫補助事業
2	唐古・鍵	第99次	田原本町鍵 279番1他	田原本町	下水道立坑 の設置	2004.7.17 ～9.18	26m ²	弥生・中世・ 近世	奥谷	下水道課
3	唐古・鍵	第100次	田原本町鍵131 番1、133番地	乾 芳和 乾 宏子	駐車場の建 設(税理確認)	2004.11.24 ～11.26	105m ²	弥生・古墳	清水琢哉 奥谷・豆谷	国庫補助事業 (重要遺跡認定)
4	笹鉢山 1号墳	第5次	田原本町八尾 264番地	田原本町	範囲確認	2005.2.2 ～3.30	277m ²	古墳・古代・ 中世・近世	清水・ 奥谷	国庫補助事業
5	十六面・ 薬王寺	第21次	田原本町十六 面278番1	山辺広城行 政事務組合	防火水槽の 設置	2004.8.18 ～9.17	43m ²	古墳・古代・ 中世	清水	受託
6	十六面・ 薬王寺	第22次	田原本町薬王 寺463番地	大西健介	個人住宅の 建築	2004.11.4	9m ²	中世	清水	国庫補助事業
7	薬王寺東	第3次	田原本町薬王 寺87番4	城野紀美 子	個人住宅の 建築	2004.6.14 ～6.15	12m ²	古墳・中世	清水	国庫補助事業
8	筋道遺	第1次	田原本町黒田 277番6	金澤伸夫	個人住宅の 建築	2004.10.18 ～10.19	12m ²	中世	清水	国庫補助事業
9	宮古北	第14次	田原本町保津 404番1	国保中央 病院	既設病院の 増築	2004.7.12 ～7.26	171m ²	中世	清水	受託
10	保津・ 宮古	第33次	田原本町宮古 47番3	田原本町	道路拡幅工 事	2004.12.7 ～12.10	96m ²	中世・近世	清水	建設課
11	保津環濠	第1次	田原本町保津 157番地、158番 地	田原本町	道路拡幅工 事	2004.12.14 ～12.20	14m ²	中世・近世	清水	建設課
12	秦庄	第4次	田原本町宮森 21番1	田原本町	下水道立坑 の設置	2004.6.22 ～6.24	6.25m ²	弥生・中世	奥谷	下水道課
13	秦樂寺	第1次	田原本町秦庄268 番2、286番2	梅木 誠 梅木 亨	個人住宅の 建築	2005.2.21 ～2.25	20m ²	中世・近世	清水	国庫補助事業
14	日光寺 推定地	第5次	田原本町千代 332番1	葛木木材 産業㈱	公共下水管 の埋設	2004.5.6 ～5.12	52m ²	中世・近世	奥谷 豆谷	受託
15	千代	第5次	田原本町千代 1167番2	岡橋靖郎	個人住宅の 建築	2005.2.14 ～3.25	67m ²	中世・近世・ 近代	豆谷	国庫補助事業
16	阪手北	第4次	田原本町阪手 301番1	益 行雄	個人住宅の 建築	2004.9.20 ～9.22	12m ²	中世・近世	清水	国庫補助事業
17	羽子田	第28次	田原本町393 番2	岡本 忠	個人住宅の 建築	2005.2.7 ～2.11	40m ²	中世・近世	奥谷	国庫補助事業
18	寺内町	第9次	田原本町80番 2、81番1	島山泰輔	個人住宅の 建築	2004.7.28 ～8.9	20m ²	近世・近代	清水	国庫補助事業



唐古・鍵遺跡の航空写真と調査位置（平成16年度分）



絵画土器（鹿）

玉砥石

銅鏡

多孔土器

唐古・鍵遺跡 第98次調査 出上遺物

唐古・鍵遺跡 第98次調査

(弥生・古墳・中世)

所在地 田原本町大字鍵小字長田238-1

調査面積 253m²

調査原因 内容確認

担当者 豊谷和之・奥谷知日朗

調査期間 2004.7.6~10.23

遺物量 172箱

位置・環境

唐古・鍵遺跡は、標高48m前後の沖積地に立地する弥生時代を代表する環濠集落である。その占有面積は約42万m²に達する。

今回の調査地は、唐古池の南側、遺跡のほぼ中央部にあたる。中央部での調査は、第50・53次の通学路改修に伴う発掘調査しかなされておらず、その実態は不鮮明であった。

調査概要

弥生時代前期：土坑3基、溝1条。

～中期初頭 性格不明造構1基

弥生時代中期前半：土坑12基、溝3条

弥生時代中期後半：土坑11基、溝1条（再掘削）、

堅穴住居1棟

弥生時代後期初頭：土坑1基、溝1条

古墳時代：土坑1基、落ち込み1

中世：性格不明造構2基、素掘小溝多數

弥生時代中期初頭の性格不明造構から、用途不明木製品・伊勢湾沿岸地城から搬入された条痕文甕を検出した。

まとめ

今回の調査によって、これまで不明であった唐古・鍵遺跡の中央部の一端を明らかにすることができた。

地形は、弥生時代以前の河跡と、これに挟まれたやせた微高地からなる。本調査地と唐古池の間は、大きく落ち込むようである。弥生時代前期から中期初頭は、大型土坑が掘削されるが生活面は安定していない。中期中頃には、微高地北端に東西方向の区画溝が掘削され、微高地部では堅穴住居跡と考えられる柱穴や炭灰層をもつ土坑を多数検出した。



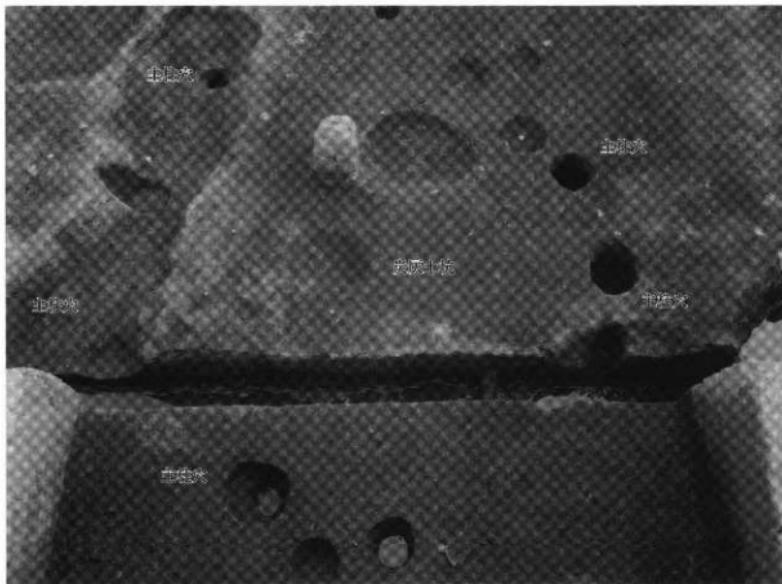
1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査地全景（南から）



3. 用途不明木製品出土状況



豎穴住居跡を復元する

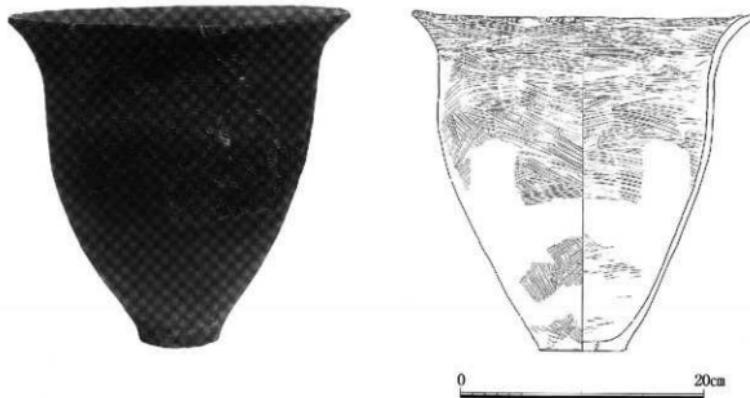
第98次調査では、調査区中央の微高地部を中心に、多数の柱穴や炭灰土坑を検出した。こうした遺構群は、これまでの調査でも検出されており、豎穴住居跡であろうと考えられてきた。つまり、唐古・鍵遺跡には豎穴住居がなかったのではなく、低地部に対応した構造やその集住密度の高さといった諸要因から、壁や周溝が残らなかつたのである。

今回検出したSB-101はそうした例の一つであるが、炭灰土坑を中心に配置された柱穴に柱根が残存しており、本来の豎穴住居の姿を比較的把握し易いものであった。炭灰土坑SK-108を中心として径約3mの位置に主柱穴が5基巡る。この柱配置からは、おおよそ5～6mの円形豎穴住居が復元できる。また、柱穴4基には柱根が残存した。柱根は、ヒノキ材である。

本豎穴住居跡は、弥生時代中期中葉に埋没した溝の堆積土上に構築されており、炭灰土坑の出土土器などから、時期は大和第Ⅳ様式と考えられる。

Column 1

唐古・鍵遺跡 第98次
～弥生時代～



伊勢湾沿岸地域から運ばれた甕

第98次調査において、弥生時代中期初頭の性格不明遺構SX-201から、伊勢湾沿岸地域から搬入されたと考えられる条痕文甕が出土した。口縁部から底部までの破片が残るが、胴部下半の大半を欠く。復元値で、器高27.7cm、口径27.4cm、底径7.0cmを測る。

器形は、底部径に対し口縁部径が大きく、頸部がすさまらない、いわゆる倒鐘形を呈する。口縁端部は、条痕工具による左回りの押圧によって、端面はやや丸くなる。外面とも全面に条痕文が施される。外面は、底部から胴部にかけて左上がりの斜め条痕を施した後、胴部中央を右上がりの条痕を部分的に重ねる。頸部から口縁部は、横位条痕を右回りに施す。内面は、横位条痕を左回りに施す。

外面の胴部上半から口縁部には、煤の付着が著しい。内面は煮沸による土器表面の小穴状の剥離と変色（黒褐色）が観察される。

Column 2

唐古・鍵遺跡 第98次
～弥生時代～

所 在 地 田原本町大字鍵小字垣内279-1他

調査面積 26m²

調査原因 下水道工事

担当者 奥谷知日朗

調査期間 2004.7.17~9.18

遺 物 量 28箱

位置・環境

本調査地は、遺跡の南西部にあたる鍵集落内で実施した。鍵集落は、中世豪族居館跡である唐古南氏居館跡推定地と重複している。

今回は、下水道工事に伴う調査である。調査は、下水道立坑設置箇所である14ヵ所において実施した。

調査概要

弥生時代中期中頃：溝1条、土坑1基

弥生時代中期後半：土坑1基

弥生時代後期：溝5条

弥生時代時期不明：土坑1基、柱穴1基

中世：溝3条、素掘小溝1条

近世以降：溝6条、土坑2基

弥生時代中期の土坑2基は、井戸と考えられる。鍵集落の南北道路より西側の各トレンチでは、環濠と考えられる溝を4条検出した。鍵集落の南西側にあたる第8トレンチで検出した環濠からは、多量の弥生時代後期末の土器とともに、弧帯文を描いた土器片が出土した。

まとめ

今回の調査では、八阪神社より北側のトレンチで弥生時代の遺構を多く検出した。八阪神社の北側道路内のトレンチでは中期の土坑を検出しており、ここまで居住域が拡がる可能性が考えられる。一方、神社より南側のトレンチでは、弥生時代の遺構・遺物とともに希薄である。しかし、最も南西に位置する第8・12トレンチで環濠を検出したことから、鍵集落は唐古・鍵遺跡の範囲内であると考えられる。



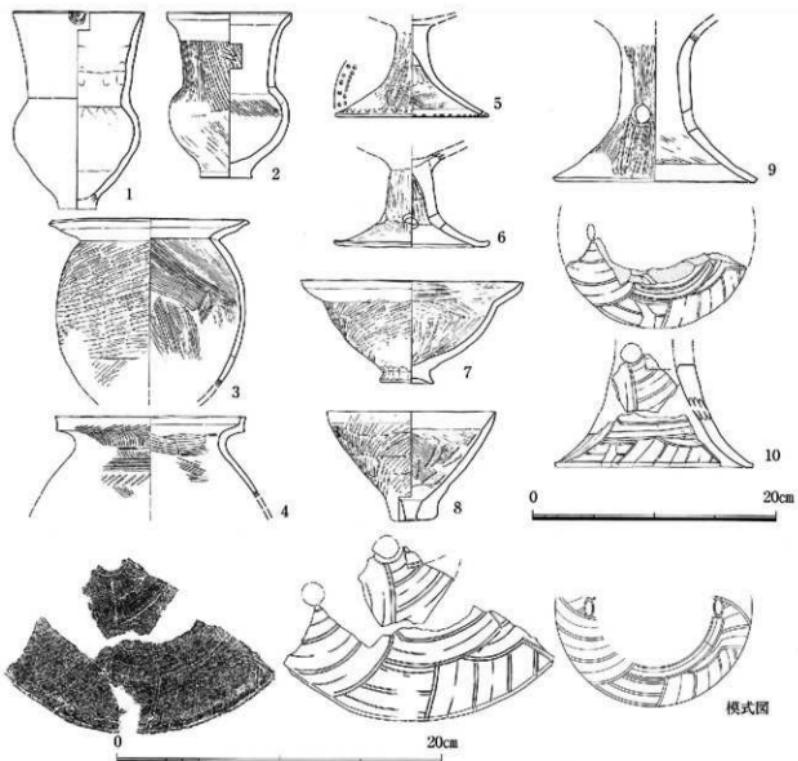
1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 第6トレンチ全景 (東から)



3. 第8トレンチ全景 (南から)



弧帯文が描かれた器台

本遺跡の南西端にあたる第8トレンチでは、南北方向に走行する環濠を検出した。環濠は多量の後期弥生土器の廃棄によって埋没しており、その主体は大和第VI-3様式である。ここで図示した遺物は、環濠の上層から出土したものである。このうち、2の長頸壺は河内から、4の甕は近江からの搬入品と考えられる。

特筆される遺物として、弧帯文が描かれた器台がある(10)。この器台は体部と裾部の2片があり、胎土・色調・調整から同一個体と考えられるが、その位置関係については再考の余地を残す。体部片には円形と三角形とみられる2種類の透かし孔が、裾部片には円形の透かし孔がある。弧帯文の基本的な単位となる帯は、中央に1線をひき両端を2重線で表現する。また、文様を描く際の割付線も確認される。

Column 3

唐古・鍵遺跡 第99次
～弥生時代～

唐古・鍵遺跡 第100次調査

(弥生・古墳)

所在地 田原本町大字鍵小字北登戸田131-1,133

調査面積 105m²

調査原因 範囲確認（駐車場の建設）

担当者 清水琢哉・奥谷知日朗・豆谷和之

調査期間 2004.11.24~11.26

遺物量 7箱

位置・環境

今回の調査地は、遺跡の南端及び南側隣接地にあたる。周辺では第32・52次調査を実施しているが、遺跡の南限は明らかでない。このため、遺跡南端の状況を把握することを目的として、南北105m、幅1mの調査区を設定した。

調査概要

弥生時代：河跡1条

古墳時代：土坑1基、溝4条

時期不明：河跡2条

調査区北側で弥生時代の河跡を検出した。河跡の最下層からは、弥生時代前期の壺等が出土した。下層からは中期後半の水差形土器等が、上層からは後期初頭の壺等が出土した。

また、調査区中央及び南側で古墳時代の土坑・溝を検出した。

まとめ

今回の調査では、弥生時代の集落の南限を示す河跡を検出した。この河跡は、弥生時代前期から後期まで流路の移動もなく安定した河川敷をもっていたとみられる。この河川の安定が唐古・鍵集落の発展に関連していた可能性がある。また、集落と河川との関係が明らかとなったことから、集落立地を考える上で大きな成果を得た。

古墳時代の遺構は調査地南側に拡がっていた。遺構の性格や唐古・鍵遺跡との関係については今後の検討が必要である。なお、今回検出した遺構から、唐古・鍵遺跡の範囲を南側に80m拡張することになった（田教文第333-17号）。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 調査地北半 (南から)



3. 古墳時代溝完掘状況

笛鉢山1号墳 第5次調査

(古墳・古代・中世・近世)

所在地 田原本町大字八尾小字山本264

調査面積 277m²

調査原因 范囲確認調査

担当者 清水琢哉・奥谷知日朗

調査期間 2005.2.2~3.30

遺物量 21箱

位置・環境

笛鉢山1号墳は、標高47mの沖積地に立地する前方後円墳である。前方部が東を向き、全長約50m、高さ4mの墳丘が残る。墳丘上には稻荷神社が祀られる。

本古墳は、これまでの調査により2重周濠を持つことが明らかとなっている。しかし、墳丘本体の規模等については不明な点が多い。

今回の調査は、南側内濠と外濠の位置の確認を目的とした第1トレンチ、前方部南東端の確認を目的とした第2トレンチの2つのトレンチを設定した。

調査概要

古墳時代：古墳1基（周濠2条）、性格不明遺構1

古代～中世：土坑3基、小溝2条

中世：素掘小溝群

近世：素掘小溝群

第1トレンチでは内濠と外濠を確認した。中堤の幅はトレンチの西側で約7.5m、東側では6.5mであった。古墳内濠上層からは、円筒埴輪片とともに馬齒や古代の上器が出上した。また、外濠南肩から短頸壺1点と破砕された須恵器大甕が出土した。

第2トレンチでは前方部南東端付近の内濠墳丘側の肩を確認した。また、6世紀前半の不明遺構を確認した。内濠上層からは、円筒埴輪片と古代の土器、「萬年通寶」などが出土した。

まとめ

調査の結果、墳丘規模を確定するための手掛かりを得ることができた。ただし、前方部のプランを確定するにはまだ情報不足であり、今後の調査で確認する必要がある。



1. 調査地点の位置 (1 : 5000)



2. 第1トレンチ全景 (南東から)



3. 第2トレンチ全景 (南東から)

所 在 地	田原本町大字十六面小字十六面278-1	調査面積	43m ²
調査原因	防火水槽の設置	担当者	清水琢哉
調査期間	2004.8.18~9.17	遺 物 量	20箱

位置・環境

十六面・薬王寺遺跡は、田原本町西部、標高48m前後の沖積地に立地する。中世の屋敷跡である保津氏居館跡推定地、古代の水田跡、古墳時代～弥生時代の集落跡などからなる複合遺跡である。

今回の調査地は、遺跡の西半南部に位置する。西側隣接地でおこなった第5次調査の成果から、古墳時代～中世の遺構が拡がると考えられた。

調査概要

古墳時代：土坑4、建物跡

古代？：水田？

中世：井戸2基、溝1条、建物跡1棟

中世の井戸2基はいずれも12世紀後半に属する。SK-51は曲物7段の井戸枠をもつ。深さ2.6m。枠内下層から曲物容器・瓦器・土師器小皿等が出土した。

SK-52は素掘りの井戸で、上層～中層は炭灰層と緑灰色土の互層で埋没する。深さ2.7m以上。瓦器・土師器小皿・山茶塊等が多数出土した。山茶塊の高台内には墨書きがみられる。

まとめ

今回の調査では、古墳時代と中世の遺構の拡がりを確認することができた。また、足跡状の窪みが残る遺構面を検出しておおり、古代の水田跡である可能性が考えられる。

中世の遺構は、ほとんどが12世紀代のものであるが、黒色土器小片が多く出土しており、平安時代後期を通じて存在した遺跡とみることができよう。



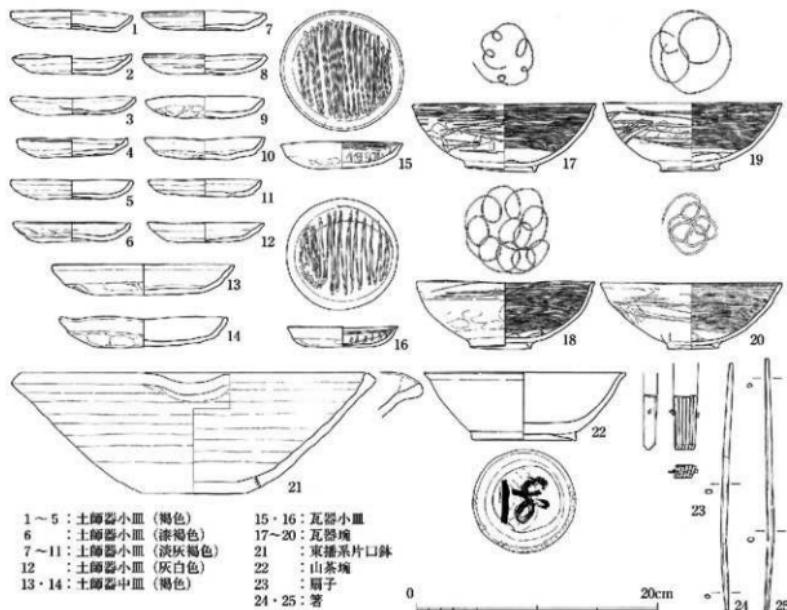
1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 調査地西半 (北から)



3. SK-52遺物出土状況



墨書がある山茶塊

十六面・薬王寺遺跡第21次調査で検出した井戸SK-52からは、上層を中心に多數の土器が出土した。土師器小皿や瓦器塊・瓦器小皿には完形品も多い。また、土器群が出土した層は炭灰層で、炭化米も多く含まれることから、脱穀後の藁や穀殼等を焼却し、それを井戸に投棄したようである。従って、脱穀作業と相前後して饗宴がおこなわれた可能性も考えられる。

出土土器の大半が瓦器塊と土師器小皿で、少量の土師器中皿と瓦器小皿が含まれる。また、山茶塊1点が出土しており、高台内面に「は」とも読める墨書が認められた。このほか、東播系のこね鉢も出土した。木製品では箸や扇、方形曲物の底板などが出土している。これらの資料は、平安時代末の一括資料として重要である。特に、墨書き土器や箸・扇などが出土したことから、遺跡の性格についても検討する必要があろう。

Column 4

十六面・薬王寺遺跡 第21次
～平安時代～

十六面・薬王寺遺跡 第22次調査

(弥生・中世)

所 在 地 田原本町大字薬王寺小字大門463

調査面積 9 m²

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢磨

調査期間 2004.11.4

遺 物 量 1 箱

位置・環境

今回の調査地は、遺跡の中央南側、薬王寺推定地のはば中央に位置する。北東30mの薬王寺推定地第1次調査では、薬王寺との関係を窺わせるような遺構・遺物を検出している。また、これまでの十六面・薬王寺遺跡南部の調査により、弥生時代後期の大きな河跡が東南東－西北西方向に流れていること、その東岸付近に庄内期の円形周溝墓が、西岸付近に布留期の方形周溝墓群がつくられていたことが判明している。

調査概要

弥生時代後期：河跡？

中世：素掘小溝群

弥生時代後期の遺構は、調査区が狭小であるため方向や規模をおさえることができなかった。ただし、東側に向かって深くなる状況であり、遺構の中心は調査地よりさらに東側となる可能性が高い。

出土した弥生土器はいずれも小片で時期が判断できるものは少ないが、後期のタタキ変小片を含む。

まとめ

今回の調査では、弥生時代後期の遺物を含む落ち込みまたは河跡の一部を検出した。遺跡南部の調査では、これまで第11次・19次・20次調査で当該時期の黒褐色粘質土堆積層を検出しているが、今回検出した河跡の黒褐色粘質土もこれらと一連で形成された堆積層である可能性が高い。

なお、この堆積層は本調査地の南西40mの第12次調査と北東30mの薬王寺推定地第1次調査で確認されておらず、両調査区の間の本調査地付近を東南東－西北西方向に流れていったと考えることができよう。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 調査区全景 (東から)



3. 南壁土層堆積状況

薬王寺東遺跡 第3次調査

(古墳・中世・近世)

所 在 地	田原本町大字薬王寺小字卒塔婆堂87-4	調査面積	12m ²
調査原因	個人住宅の建築	担当者	清水琢哉
調査期間	2004.6.14~6.15	遺 物 量	1 箱

位置・環境

薬王寺東遺跡は、標高48m前後の沖積地に立地する。遺跡南部では過去に試掘調査がおこなわれておらず、古墳時代前期の河跡を確認している。また、遺跡北部では、発掘調査により古代の溝状遺構や水田の可能性のある遺構面を確認している。今回の調査地は、試掘調査で河跡を確認した地点の北側60mの地点であり、集落遺構の拡がりの有無を確認できると考えられた。

調査概要

古墳時代：落ち込み？

中・近世：素掘小溝群

調査区が狭小であるため古墳時代の遺構の性格は判断し難いが、大溝や河などの大きな遺構の一部となる可能性が考えられる。南東-北西方向に流れていたとみられる。この落ち込み上層から、布留3式頃の二重口縁壺1点などが出土した。

まとめ

調査の結果、本調査地全体が古墳時代頃の大きな落ち込みの一部であったことが明らかとなった。出土遺物は、二重口縁壺1個体分の破片がまとまって出土しているが、それ以外の土器片は少ない。したがって、集落に近接するような出土状況ではないと考えられる。二重口縁壺の破片を集落から離れた河に投棄した意図は明らかでない。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 調査区全景 (東から)



3. 北壁土層堆積状況

筋違道 第1次調査

(古代・中世)

所在地 田原本町大字黒田小字南マベ277-6

調査面積 12m²

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2004.10.18~10.19

遺物量 1箱

位置・環境

筋違道は、飛鳥と斑鳩を結ぶ南南東-北北西方向の直線道路である。大字宮古・黒田や三宅町内などにその痕跡の道路や地割りが残る。聖徳太子が通ったという伝承から「太子道」の名で親しまれている。

筋違道の造構としては、保津・宮古遺跡第14次調査で西側側溝を検出しているほか、保津・宮古間の東西道路拡幅工事時の工事立会で東側側溝の可能性がある溝1条を検出している。これらの溝の規模は幅3~4m、深さ0.5m前後である。これらの成果から、道路幅約25m前後の道であった可能性が考えられている。

今回の調査は、大字黒田の筋違道の痕跡とされる道路の東側でおこなった。その位置から、筋違道東側側溝が検出されたと考えられた。

調査概要

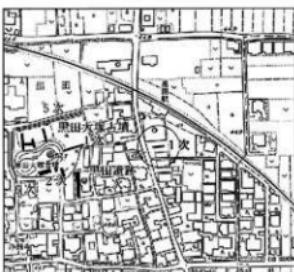
古代? : 溝状造構 1

中世: 素掘小溝群

古代とみられる溝状造構は、東肩を検出したのみであり、幅は明らかでない。調査区内での検出幅6.5m以上となる。深さ約0.5m。遺物がほとんど出土していないため、詳細な時期決定はできなかった。中世素掘小溝に切られる。

まとめ

調査の結果、筋違道の東側側溝の可能性がある溝状造構を検出した。ただし、溝幅が他の調査で検出している筋違道側溝の規模より大幅に広いことから、筋違道側溝の当初の造構ではなく、後世に改変を受けた可能性が考えられる。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景 (東から)



3. 北壁土層堆積状況

宮古北遺跡 第14次調査

(中世)

所在地 田原本町大字宮古小字九反田404-1

調査面積 171m²

調査原因 既設病院の増築

担当者 清水琢哉

調査期間 2004.7.12~7.26

遺物量 1箱

位置・環境

宮古北遺跡は、標高47m前後の沖積地に立地する。これまで13次にわたる調査がおこなわれており、弥生時代の塙を伴う水路、古墳時代前期の環濠をもつ集落、飛鳥～奈良時代の建物跡等を検出している。なお、第8次調査までは保津・宮古遺跡として調査をおこなってきたが、調査の進展により保津・宮古遺跡とは別の遺跡として取り扱う方が適切であると考えられるようになったため、保津・宮古遺跡第3次調査を宮古北遺跡第1次調査と読み替えることとなった。

調査概要

中世：素掘小溝群

当初届出地北側に調査区を設定したが、病院建設時の擾乱により遺構面がほとんど削平されていた。このため、届出地南側に改めて調査区を設けたが、中世素掘小溝群を検出したにとどまった。

まとめ

今回の調査地では、素掘小溝群以外の顕著な遺構はみられなかった。これまでの調査により、本調査地の西側には古墳時代の遺構が抜がり、本調査地の東側には飛鳥～奈良時代の遺構が抜がることが確認されているが、両者の間である本調査地周辺は遺構の空白地となっていた可能性が高い。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 第1トレンチ全景 (西から)



3. 第2トレンチ全景 (西から)

所在地 田原本町大字宮古小字宮ノ下47-3

調査面積 96m²

調査原因 道路拡幅工事

担当者 清水琢哉

調査期間 2004.12.7~12.10

遺物量 1箱

位置・環境

保津・宮古遺跡は、標高48m前後の沖積地に立地する、縄文時代後期から中世の複合遺跡である。遺跡中央南部には保津環濠集落が重複する。また、古代道路跡である筋造道が遺跡を縱断し、保津・阪手道が遺跡を横断している。

今回の調査地は、遺跡中央、保津環濠遺跡の北側隣接地にあたる。また、保津・阪手道の北側に隣接する。

調査概要

時期不明（縄文？）：土坑1基

中世：素掘小溝群

近世：素掘小溝群

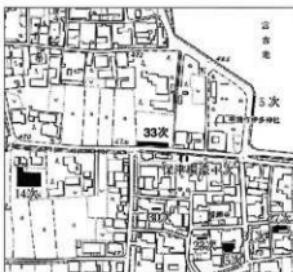
素掘小溝群は大きく3つの時期に分かれる。最も古い段階の溝は、幅約0.5m、深さ約0.3mの東西方向の溝SD-61で、これにおよそ3.5m間隔で南北方向の溝5条が直交して掘削される。

まとめ

本調査地では、素掘小溝群以外の顕著な遺構はみられなかった。中世～近世の本調査地は耕作地であったとみられる。なお、保津・阪手道の北側隣接地であることから、道路側溝が検出される可能性も考えられたが、今回の調査範囲では確認できなかった。

当遺跡では、弥生時代後期の遺構が散漫ながら広く分布するが、本調査地では弥生時代の遺構は検出できなかつた。遺物も少ないとから、本調査地周辺では弥生時代の遺構が拡がっていなかつた可能性もある。

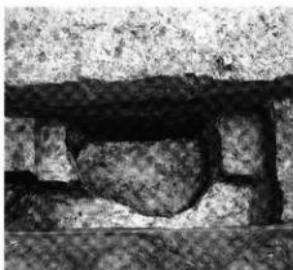
弥生時代の調査などでベース層としている黒色粘土層の下で、土坑1基を確認した。縄文時代頃の遺構となる可能性がある。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 調査区全景 (東から)



3. 時期不明土坑

保津環濠遺跡 第1次調査

(中世)

所 在 地	田原本町大字保津小字村内垣内157, 158	調査面積	14m ²
調査原因	道路拡幅工事	担当者	清水琢哉
調査期間	2004.12.14~12.20	遺 物 量	1 箱

位置・環境

保津環濠遺跡は、標高47m前後の沖積地に立地する。条里1町分に鎌倉伊多神社が南西に張り出す形の環濠集落である。規模は、南北約160m、東西約110mである。保津環濠遺跡内では、保津・宮古遺跡第15・23・30次調査を行っており、いずれの調査でも鎌倉時代と江戸時代を中心とする遺構を多数検出している。また、室町時代の遺構も検出している。

今回の調査は、保津集落の北側環濠の外堀にある堤状の敷地で行った。調査地の北側には保津領と宮古領の間を東西に流れる水路があり、その北側が保津・阪手道の痕跡とされる町道となっている。

調査概要

中世前半：素掘小溝群

中世後半：大溝1条

調査区南端で、東西方向の溝1条を検出した。南肩のみの検出であり、幅は明らかでない。出土遺物は少ないと、室町時代頃の瓦質土器片を含む。

まとめ

今回の調査では、保津環濠集落の成立以前とみられる鎌倉時代頃の素掘小溝群を検出した。鎌倉期の保津・宮古遺跡南東部では、大字保津字中垣内を中心とした集落が存在するとみられる。保津環濠集落内部でも鎌倉時代の遺構が多く検出されているが、環濠集落の形態をとるには至っていないものとみられる。

室町時代頃の溝は、現在保津と宮古の間を流れる水路の前身となる遺構とみられる。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 第1トレンチ全景 (南から)



3. 中世大溝堆積状況

秦庄遺跡 第4次調査

(弥生・古墳・中世・近世)

所 在 地 田原本町大字宮森小字ハネ坪21-1

調査面積 6.25m²

調査原因 下水道工事

担当者 奥谷知日朗

調査期間 2004.6.22~6.24

遺 物 量 1箱

位置・環境

秦庄遺跡は、標高約53m前後の沖積地に立地する、古墳時代・中世の集落跡と考えられる遺跡である。本遺跡の南西には弥生～古墳時代の集落跡である多遺跡が、西には弥生時代中期の墓域と考えられる矢部南遺跡が拡がる。

今回の調査地は遺跡の南東端にあたる。本地から西に約110mの地点では、2003年度末に樅原考古学研究所による工事立会がなされており、石斧片をはじめとする遺物が採集されている。

調査概要

弥生時代後期～古墳時代：溝1条

中世：柱穴2基、素掘小溝2条

近世～近代：素掘小溝5条

弥生時代～中世の遺構は、同一の遺構面で検出した。弥生時代後期～古墳時代の溝は、北東～南西方向に走行する。出土土器から弥生時代後期に掘削され、古墳時代にかけて埋没したものとみられる。

まとめ

調査の結果、弥生時代～古墳時代に所属する遺構を確認した。このことから、遺跡の範囲が本地まで及ぶことが確認された。

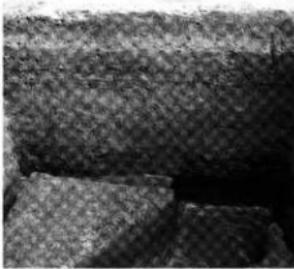
調査後、本地北側の県道拡幅工事に伴い、発掘調査が樅原考古学研究所によって実施された。この調査では、弥生時代後期を中心とした土坑・河跡等が検出されたことから、遺跡範囲が拡大された。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 調査区全景 (北東から)



3. 南壁土層堆積状況

秦楽寺遺跡 第1次調査

(中世・近世)

所 在 地 田原本町大字秦庄小字北垣内268-2, 286-2 調査面積 20m²

調査原因 個人住宅の建築 担 当 者 清水琢哉

調査期間 2005.2.21~2.25 遺 物 量 3 箱

位置・環境

秦楽寺遺跡は、標高52m前後の沖積地に立地する。古代の創建と伝えられる寺院「秦楽寺」と中世城館跡「秦楽寺城」からなる複合遺跡である。秦楽寺は秦河勝の創建と伝えられる古刹であるが、元亀元年（1570）9月に松永久秀の攻略を受け、「秦楽寺」は陥落、堂宇も灰燼に帰した（二条宴乘記）。現在の秦楽寺伽藍は近世に再興されたものである。

今回の調査地は、秦楽寺の南西に位置する。建物予定地の北東部と建物西側の2カ所にトレンチを設定した。

調査概要

中世：井戸1基、土坑3基、柱穴群

近世：溝1条、素掘小溝群

本調査地では、明確な古代の遺構を検出していない。平安時代末頃から遺構がみられるようになり、鎌倉～室町時代の土坑と柱穴が密集して検出される。近世には一時耕地となっていた可能性があり、西側の第2トレンチでは素掘小溝群が拡がる。

遺物では、平安時代末頃とみられる土坑から被熱発泡した平瓦が出土した。また、鎌倉時代の井戸からは完形の瓦器塊・土師器小皿などが出土した。

まとめ

今回の調査では、秦楽寺遺跡の具体的な様相を初めて把握することができた。ただし、調査区が狭小であり、秦楽寺の伽藍範囲や秦楽寺城との関係は今後の調査により明らかにしていく必要がある。なお、平安時代末頃の遺構から被熱発泡した瓦が出土し、この時期の火災が想定される。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 第1トレンチ全景（東から）



3. 第1トレンチ全景（南から）

日光寺推定地 第5次調査

(中世・近世)

所在地 田原本町大字千代小字比沙332-1

調査面積 52m²

調査原因 下水道工事

担当者 奥谷知日朗・豆谷和之

調査期間 2004.5.6~5.12

遺物量 6箱

位置・環境

日光寺推定地は、標高48m前後の沖積地に立地する。周辺の「日光寺」「中殿」「極楽」等の小字名から中世寺院と推定される遺跡である。これまでの4次にわたる調査では、11~13世紀を中心とした遺構を検出しており、当時期に寺院あるいは居館の存在が推定される。

今回は、東西約52mの調査区であり、昨年度実施した第4次調査と一部重複する。第4次調査は敷地内の東西2カ所にトレッチを設定したもので、調査の結果、本地は中世屋敷地であることが判明した。また、敷地南端では河川堆積を確認したことから、河川の南に寺院「日光寺」が、北に屋敷が拡がるものと想定される。

調査概要

中世前半：土坑2基、溝3条、柱穴25基

中世後半：大溝2条、溝2条

中世時期不明：土坑2基、小溝5条

近世：大溝1条、小溝多数

平安～鎌倉期の遺構は、調査区東半で多く検出した。柱穴には礎石を残すものもあるが、これらから建物等を復元するまでには至らない。調査区西半で検出した室町期の大溝1条は、溝幅約6m、深さ0.7m以上を測る。13世紀後半に掘削され、再掘削を経て14世紀後半まで機能していたと考えられる。

まとめ

今回の調査では、大溝をはじめとした室町期の遺構を検出した。このことから、中世屋敷は当該時期まで存続するものと考えられる。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 調査地全景 (西から)



3. 中世溝遺物出土状況

千代遺跡 第5次調査

(中世・近世・近代)

所在地 田原本町大字千代小字垣内1167-2

調査面積 67m²

調査原因 個人住宅の建築

担当者 豊谷和之

調査期間 2005.2.14～3.25

遺物量 9箱

位置・環境

千代遺跡は、標高53m前後の沖積地に立地する。遺跡は、西半の八条環濠集落と東半の遺物散布地で構成される複合遺跡である。

今回の調査地は、八条集落の環濠内にある。これまで八条集落では、第3次と第4次の2件の発掘調査を行い、弥生～古墳時代、中世、近世、近世末のおおきく4面の遺構検出面を確認している。

調査概要

中世後半：河跡2条

中世末～近世初頭：土坑1基、溝3条

近世後半：溝3条

近代：土坑6基、溝2条

中世末から近世初頭に掘削された大溝は、南北に走行し、周辺地を区画するとともに主幹排水路の役目を持っていたと考えられる。なお、本溝の西脇には杭と板材によるL字状の付属施設を伴った土坑が取り付く。南北大溝および取り付く土坑からは、瓦とともに中世末から近世初頭の土師器羽釜や瓦質上器などが出土した。

まとめ

今回の調査で検出した南北大溝は、調査地北側に位置する妙称寺の西側を画していたものと考えられる。妙称寺は、天文元年（1532）三月の開基創立と伝えられるが、出土遺物との間に矛盾はない。おそらく、妙称寺の創立当初はより大きい寺域を有していたものが、近世末に南北大溝が埋め立てられ、現在の寺域、地割りになったと考えられる。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景（南から）



3. 土坑遺物出土状況

所在地 田原本町大字阪手小字宮ノ内301-2

調査面積 12m²

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2004.9.20~9.22

遺物量 12箱

位置・環境

阪手北遺跡は、標高50m前後の沖積地に立地する。本遺跡は、中近世の阪手北環濠集落と、その北側を範囲とする古代～中世の複合遺跡であることが明らかとなりつつある。特に、第3次調査では奈良～平安時代の墨書き器や石鈎帯の巡方が出土し、下ッ道や保津・阪手道に近接する位置関係から、古代の官衙的な性格をもつ遺跡として考えられている。

今回の調査地は、遺跡中央南側に位置する。阪手北環濠集落の中央、阿弥陀寺の西側にあたる。その位置から、中近世の遺構の存在が予想された。また、集落北側で検出している古代の遺跡の拡がりも期待された。

調査概要

中世：土坑3基、溝2条、建物跡

中世末：溝1条

近世：土坑1基、溝3条

まとめ

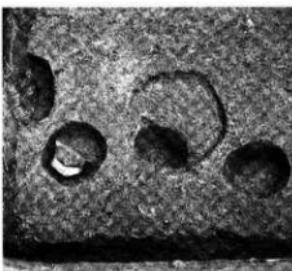
調査の結果、中世の遺構が濃密に分布することが確認された。また、中世末の遺構からは、多量の瓦が出土したことから、中世寺院の存在が推定される。調査地の東側にある阿弥陀寺は、明治初期に廃絶した西之坊（八坂神社の神宮寺）の跡地に立地するという。西之坊には薬師堂と釈迦堂があり、旧釈迦堂の釈迦如来坐像（室町時代）は現在阿弥陀寺に納められている。西之坊が中世にも存在した寺院であるならば、今回の調査で検出した瓦は西之坊関連の遺物となる可能性が高い。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景 (東から)



3. 中世柱穴完掘状況

羽子田遺跡 第28次調査

(中世・近世)

所 在 地 田原本町小字西羽子田393-2

調査面積 40m²

調査原因 個人住宅の建築

担当者 奥谷知日朗

調査期間 2005.2.7~2.11

遺物量 1箱

位置・環境

羽子田遺跡は、標高48m前後の沖積地に立地する。遺跡は、弥生時代中期～古墳時代前期の集落跡、古墳時代前期末～古墳時代後期の古墳群などで構成される複合遺跡である。

今回の調査地は遺跡の南部にあたる。周辺では第4・9・13・15次調査を実施している。第4次調査では羽子田4号墳を、第9次調査では羽子田12号墳を検出している。しかし、南西の第13次調査では顕著な遺構は検出していない。

調査概要

中世：素掘小溝群

近世：土坑3基

まとめ

今回の調査では、弥生時代～古墳時代に所属する遺構は確認されなかった。しかし、素掘小溝や包含層から古墳時代に所属する須恵器片や埴輪片が出土している。このことから、本調査区の周辺には古墳の存在が想定される。

なお、近世の土坑3基は、その形態と埋土から粘土採掘坑の可能性がある。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 調査区全景 (南から)



3. 近世土坑

寺内町遺跡 第9次調査

(近世・近代)

所在地 田原本町小字大門町80-2, 81-1

調査面積 20m²

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2004.7.28~8.9

遺物量 28箱

位置・環境

寺内町遺跡は、標高48m前後の沖積地に立地する。中世の田原本は、楽田寺とその門前町、小室環濠集落、田原本氏居館跡の三者が隣接して形成されていた。近世初頭に領主平野氏により誘致された教行寺は、これらを取り込む形で寺内町を形成し、後に田原本氏居館跡を利用して平野氏が陣屋を造営した。当初領地支配を代行していた教行寺は平野氏が直接支配に乗り出したことで転出を余儀なくされ、教行寺によって造営された寺内町は平野氏の陣屋町として発展した。

今回の調査地は、寺内町の南端に位置する。その位置から、寺内町南端の町屋部分の状況を確認できると考えられた。

調査概要

近世末：井戸2基、溝1条

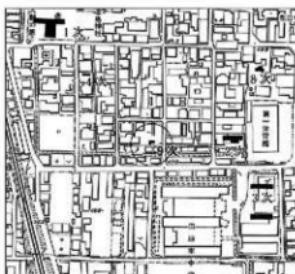
近代：溝2条

井戸2基は、いずれも上段に瓦質枠、下段に桶を据えて井戸枠としていた。近代の溝2条は、幅1.5m前後、深さ0.4m前後の南北方向で、2条が隣接して掘削されていた。うち1条には杭列が伴う。

遺物では、近世末～近代の陶磁器・瓦質土器等が多数出土した。

まとめ

本遺跡の南部では、18世紀代まで遡る遺構はほとんど見つかっていない。今回の調査でも、近世末から屋敷地としての土地利用が始まったことが明らかとなった。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 調査区全景 (東から)



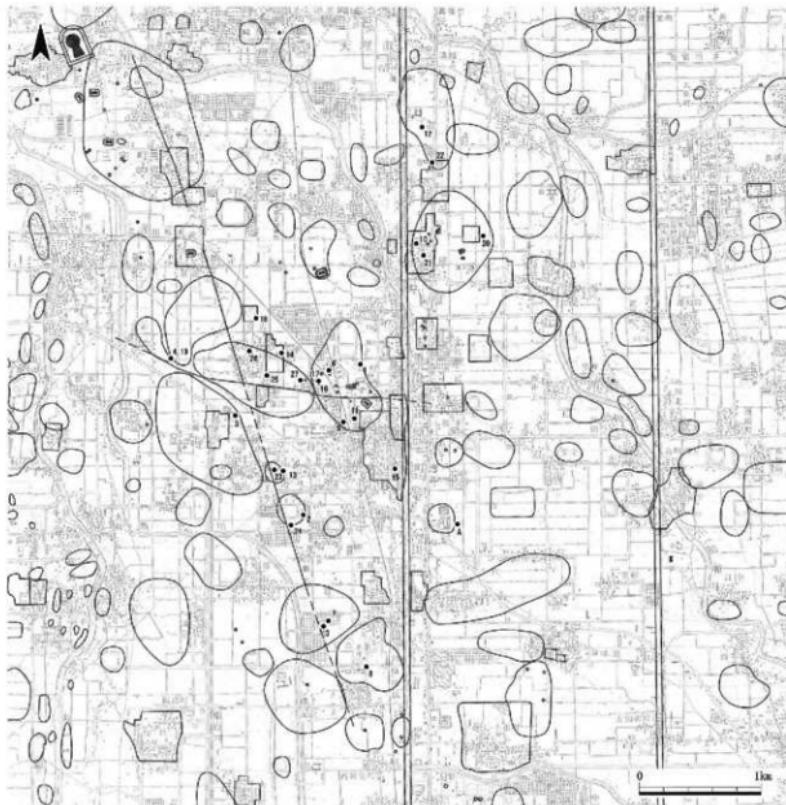
3. 近世井戸

(2) 試掘調査と工事立会の概要

2004年度（平成16年度）に実施した試掘調査と工事立会は、第8表及び第9表に示すとおりである。試掘調査は1件、工事立会は27件である。

阪手遺跡で実施した試掘調査では顕著な遺構は検出されなかった。遺跡の縁辺と考えられる。

工事立会では、唐古・鍵遺跡（R-200410・R-200420）、羽子田遺跡（R-200401）、宮古前遺跡（R-200418）、薬王寺南遺跡（R-200424）で遺構等を確認した。このうち、宮古前遺跡は新規に遺跡の確認をおこなった遺跡である。昨年度及び今年度の工事立会において中世の顕著な遺構分布が認められ、周辺の一区画は中世集落跡として考えられる。



第7図 田原本町の遺跡と試掘調査・工事立会地点 (アルファベット: 試掘調査 アラビア数字: 工事立会)

第8表 2004年度 試掘調査一覧表

番号	遺跡名	調査地	原因者	原因	進達番号 (田教文発)	進達日	調査日	調査面積	担当者	遺物
A	阪手遺跡 S-200401	田原本町千代 401番2	葛城木材産業 株式会社	分譲住宅 の建築	110	05.1.20	05.3.14 ～3.15	12m ²	豆谷	無

阪手遺跡 試掘調査 (S-200401)

(中世)

位置・環境

調査地は、遺跡の東端に位置する。1982年に奈良県が実施した発掘調査では、弥生時代の溝とそれに伴う井堰を検出している。今回の調査では、これに関連した遺構の検出が予想された。

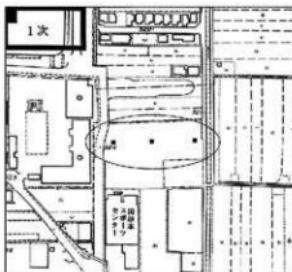
調査概要

中世：素掘小溝 3 条

調査対象地に 3ヶ所 ($4\text{ m} \times 4\text{ m}$) の試掘坑を設定し、遺構の有無を確認した。試掘坑の土層は、現地表から深さ約 1.5m までは駐車場造成時の客土、深さ約 1.9m で中世耕作土層である灰色粘質土の上面、深さ約 2.4m が地山層である黒灰色粘土の上面となる。黒灰色粘土の上面が、中世耕作痕である素掘小溝の検出面である。この他には、顕著な遺構・遺物を検出できなかった。

まとめ

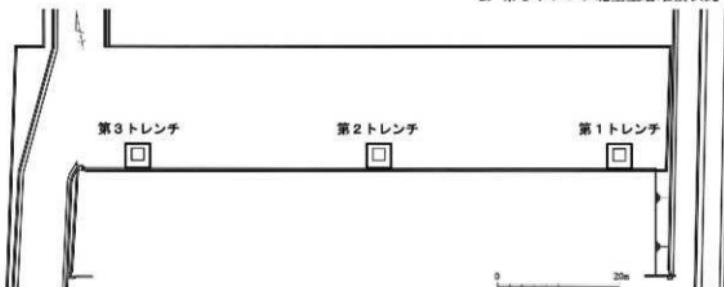
今回の試掘調査では、中世素掘小溝以外に顕著な遺構はみられなかった。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 第1トレンチ北壁土層堆積状況



3. トレンチ配置図 (1 : 800)

第9表 2004年度 立会調査一覧表

	遺跡名	調査地	原因者	工事の目的	進度番号 (田教文発)	進度日	立会日	内 容
1	羽子田遺跡 (R-200401)	田原本町八尾 662番1、663 番1	鶴城城調 査設計	賃貸住宅の 建築	78 (2003年度)	03.11.28	04.4.7	掩埋工事(南北約100m)の工事立会。調査区全体で中世土器類を確認。南端で弥生時代後期の小土 坑1基、近世野牛井1基を検出。
2	栗王寺南遺跡 (R-200402)	田原本町三笠 196番9	長谷 修	個人住宅の 建築	2	04.4.8	04.4.27	基礎掘削は浅く、客土内。
3	宮森遺跡 (R-200403)	田原本町新木 1番107	野田たか 子	個人住宅の 建築	6	04.4.14	04.5.18	基礎掘削は浅く、客土内。
4	宮古北遺跡 (R-200404)	田原本町宮古 177番2	中村和茂	個人住宅の 建築	14	04.4.16	04.5.21	基礎掘削は浅く、客土内。
5	十六面・ 栗王寺遺跡 (R-200405)	田原本町保津 199番1	H界物産 ㈱	青空駐車場 の建築	110 (2003年度)	04.3.23	04.6.2	掩埋工事の工事立会。掘削は床 上層までであり、遺構の有無は 不明。遺物の散在はみられない。
6	羽子田遺跡 (R-200406)	田原本町八尾 672番13他	福井俊夫	個人住宅の 建築	8	04.4.15	04.6.9	基礎掘削は浅く、客土内。
7	宮森遺跡 (R-200407)	田原本町新木 55番32	川端光辰	個人住宅の 建築	10	04.4.15	04.6.12	基礎掘削は浅く、客土内。
8	泰庄遺跡 (R-200408)	田原本町宮森 27番4西側道 路	田原本町	下水道立坑 の設置	26	04.5.25	04.6.23	大半は現代搅乱層。一部で中世 遺物包含層およびその直下の黒 褐色粘土層(地山?)を確認。
9	羽子田遺跡 (R-200409)	田原本町299 番21	端羽伴之	個人住宅の 建築	30	04.5.27	04.6.28	基礎は浅く、客土内。
10	唐古・難遺跡 (R-200410)	田原本町健279 番1西側道	田原本町	下水道工事	28	04.5.25	04.7.27 ~11.24	健東系の個人住宅の取付管設置工 事。弥生・中世の遺構を確認。
11	羽子田遺跡 (R-200411)	田原本町314番1、 31番3、319番8	森本幸隆	個人住宅の 建築	40	04.7.21	04.9.22	基礎は浅く、客土内。
12	清水風遺跡 (R-200412)	田原本町吉古 373番地	鶴桜谷	生コンクリート ブロックの サイロの建築	72	04.9.6	04.9.29	約1mの掘削。現代搅乱層内に とどまる。
13	栗王寺東遺跡 (R-200413)	田原本町栗王 寺87番4	城野紀美 子	個人住宅の 建築	90 (2003年度)	04.1.30	04.10.16	6月に敷地内で本調査を実施。 柱状改良が行われる。基礎掘削 は盛土内。
14	常楽寺推定地 (R-200414)	田原本町宮古 276番4	中村悦子	個人住宅の 建築	12	04.4.16	04.10.27	基礎は浅く、客土内。
15	寺内町遺跡 (R-200415)	田原本町439 番1	八倉 哲	賃貸住宅の 建築	92	04.10.26	04.11.7	現地表より約0.3m下に薄い焼上・ 炭灰層を確認。近代瓦片が出土。
16	羽子田遺跡 (R-200416)	田原本町新町 199番21	北村修三	個人住宅の 建築	88	04.10.13	04.11.9	基礎は浅く、客土内。
17	羽子田遺跡 (R-200417)	田原本町新町 199番20	宮川佳奈 男	個人住宅の 建築	96	04.10.28	04.11.13	基礎は浅く、客土内。
18	宮古北遺跡 (宮古前遺跡) (R-200418)	田原本町宮古 488番地他	宮古自治 会長 斎藤 幸徳	水路の改修	81 (2003年度)	03.12.3	04.11.23 ~11.24	東西約85mの工事立会。本地周 辺を宮古前遺跡として新規確 認。
19	宮古北遺跡 (R-200419)	田原本町宮古 177番2	中村和茂	個人住宅の 建築	14	04.4.16	04.11.24	浄化槽の設置工事に伴う立会。 中世包含層および地山層を確 認。遺構・遺物ともになし。
20	唐古・難遺跡 (R-200420)	田原本町吉古 153番地南側 水路	唐古自治 会長 中村堅一	水路の改修	102	04.12.8	04.12.9 ~12.11	東西約120mの工事立会。西側約 29mで中世及び弥生時代包含層が 露出、工事床面の変更を指示。
21	唐古・難遺跡 (R-200421)	田原本町健263番 129-1部、280番15	船木隆久	個人住宅の 建築	84	04.10.8	04.12.13	工事掘削深(1.3m)まで客土。

22	清水風遺跡 (R-200422)	田原本町314番1他	森ボリネス	下水道工事	4	04. 4.13	04.12.21	現地表から1.6mまで客土。以下、旧水田耕土、床土層。その下は時期不詳の暗褐色土層を確認。
23	第七寺東遺跡 (R-200423)	田原本町業王寺79番3他	松原 清	個人住宅の建築	80	04. 9.28	05. 1.12	基礎は浅く、客土内。
24	薬王寺南遺跡 (R-200424)	田原本町業王寺184番1、184番2	成平開発	下水道工事	78	04. 9.27	05. 1.13～1.20	下水道管の掘削工事。現地表から0.6mで中近世素面小漬群を検出。全城で古代？の河道堆積を確認。河道は、防護道とその方向を同じくする。
25	保津・宮古遺跡 (R-200425)	田原本町宮古58番2他	田原本町	上水道工事	104	04.12.10	05. 1.19～1.21	現地表より約1.4mの掘削、客土および現代搅乱土。
26	保津・宮古遺跡 (R-200426)	田原本町宮古235番6	青川雅清	農業用資材貯場の造成	94	04.10.28	05. 2. 7	擁壁工事時の立会。水田床上層内に止まる。
27	保津・宮古遺跡 (R-200427)	田原本町新町190番32	沢田英康	個人住宅の建築	108	05. 1. 4	05. 2.21	調査地は平成11年度に保津・宮古第26次調査として調査済み。工事は掘削を作わない柱状改良。

唐古・鍵遺跡 工事立会 (R-200410)

(弥生・中世・近世)

所在地 田原本町大字鍵小字旭内279番1西側道路

調査原因 下水道工事

担当者 奥谷知日朗

調査期間 2004.7.27～11.24

遺物量 2箱

位置・環境

唐古・遺跡の南西側にあたる鍵集落内において、下水道工事が計画された。下水道立坑部分は唐古・鍵遺跡第98次調査として実施し、個人住宅への取付管設置箇所32ヶ所については工事立会で対応した。

調査概要

弥生時代前期：溝1条

弥生時代中期：土坑1基、溝1条

弥生時代後期：溝2条

中世：溝6条

近世：溝4条

万行寺南側で弥生時代中期（大和第II-3様式）の溝1条を、鍵集落中央より西側で後期の溝2条を検出した。後期の溝は環濠と考えられる。

まとめ

今回の立会で検出した遺構の多くは、これまでの調査で確認した遺構につながるものと考えられる。鍵集落は、弥生時代と中近世の遺構密度が高いことを確認した。



1. 工事立会の位置 (1 : 5,000)



2. 工事立会状況 (北から)

宮古北遺跡（新規 宮古前遺跡）工事立会（R-200418）

(中世)

所在地 田原本町大字宮古小字宮古前488他

工事面積 63m²

調査原因 水路の建設

担当者 清水琢哉・奥谷知日朗

調査期間 2004.11.23～11.24

遺物量 1箱

位置・環境

調査地は、遺跡の南東側隣接地に位置する。周知の遺跡外であるが、工事箇所の北側隣接地が中世の遺物が散布する畠地となっていることから、中世集落跡の可能性を考えて工事時に立会を行った。

調査概要

中世：大溝1条、柱穴2基、性格不明遺構1基

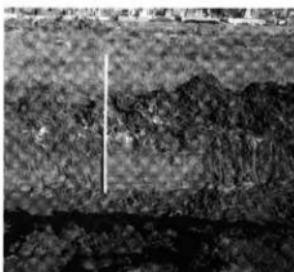
工区西端の大溝からは、瓦質土器・中世陶器片が出土した。工区中央の不明遺構（暗褐色粘質土層）からは、土師器、瓦器、瓦質花瓶などが出土した（3）。

まとめ

工事立会の結果、中世の遺構・遺物を検出した。2003年度の工事立会成果（4）とあわせて、小字宮古前の畠地が中世集落の可能性は極めて高い。このことから、今回検出した中世集落は宮古北遺跡から分離して「宮古前遺跡」として扱うことが適切であると考えられる。よって、平成16年12月28日付「出文第333-20号「埋蔵文化財包蔵地の異動について（報告）」を奈良県教育委員会に提出し、宮古前遺跡の新規確認を報告した（3頁参照）。



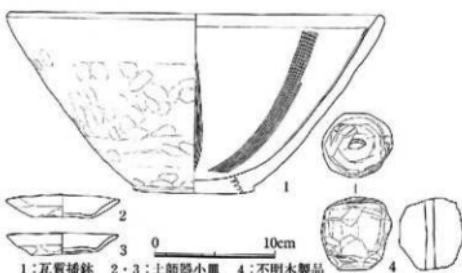
1. 工事立会の位置 (1 : 5,000)



2. 北壁土層堆積状況



3. 2004年度工事立会 出土遺物



4. 2003年度工事立会 出土遺物

3. 田原本町唐古・鍵遺跡調査検討委員会

(1) 委員会の目的

田原本町唐古・鍵遺跡調査検討委員会は、当遺跡に埋蔵されている文化財の実態を把握し、保存と活用をはかる方策、検討についての諸調整とその円滑な推進を図ることを目的として、当教育委員会に設置されたものである。委員は、考古学者と県教育委員会のメンバーで構成されている。

(2) 調査検討委員会 2004年度委員

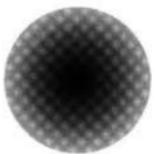
委員名	役職
橋口 隆康	奈良県立橿原考古学研究所 所長
金関 慎	大阪府立弥生文化博物館 館長
森 浩一	同志社大学 名誉教授
石野 博信	香芝市二上山博物館 館長
工業 善通	大阪府立狭山池博物館 館長
松田 真一	奈良県立橿原考古学研究所 研究部長
寺澤 薫	奈良県教育委員会文化財保存課 主幹
塙本 善章	奈良県教育委員会文化財保存課 埋蔵文化財係長



第93次調査地 現地視察

(3) 2003・2004年度 調査検討委員会の実施内容

日時	場所	内容
2003.10.6	田原本町役場 会議室 唐古・鍵遺跡第93次発掘調査地	1. 唐古・鍵遺跡第93次調査の発掘経過報告 2. 現地視察と今後の調査方針
2004.3.15	田原本町役場 会議室	1. 唐古・鍵遺跡史跡地の公有化について 2. 整備基本設計について 3. 唐古・鍵遺跡第93次調査の成果報告 4. 平成16年度の調査地選定について 5. 報告書作成について 6. その他 (唐古・鍵考古学ミュージアムの概要報告)
2004.11.12 ～11.21	田原本町文化財保存課 事務所	唐古・鍵遺跡第93次調査 大型建物の柱の視察
2005.3.7	田原本町役場 会議室	1. 唐古・鍵遺跡第98次調査の成果報告 2. 重要遺物報告（大型建物の柱・鍛型等） 3. 唐古・鍵遺跡発掘調査報告書の作成について 4. その他（遺跡の公有化・整備計画の報告）



II. 普及・啓發活動

1. 現地説明会

平成17年3月19日（土）、午後2時から地元である八尾自治会の住民を対象に、笛鉢山古墳群（1号墳）第5次調査の現地説明会を開催した。参加者45名。

この調査は、前方後円墳（1号墳）南側の周濠に当たる部分で行われ、2つの調査区において内濠と外濠を検出した。また、外濠からは須恵器大甕が出土した。



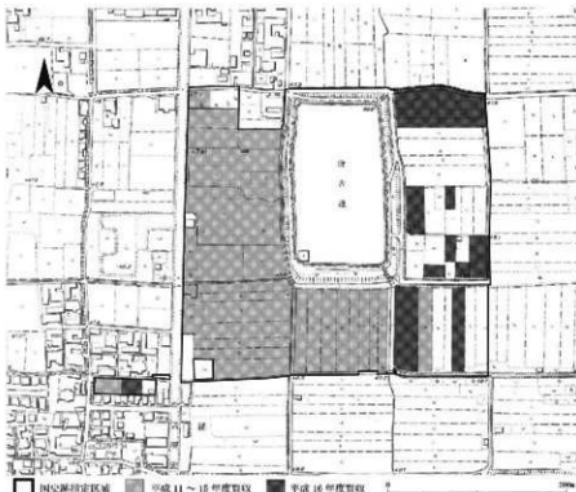
現地説明会（笛鉢山1号墳）

2. 史跡の公有化と遺跡の整備

唐古・鍵遺跡は、平成11年1月27日、唐古池を中心とする範囲の98,957.73m²（159筆）について国の史跡指定を受けた。また、平成14年12月19日には、鍵地区において検出した弥生時代中期初頭の大型建物跡部分を含む1,857.93m²（鍵248番2他7筆）について追加指定された。

これら指定を受けた範囲について、町では平成11年度から公有化を進めている。

年 度	地 番	面 積
平成11～15年度	唐古51番1ほか44筆・鍵308番4ほか32筆 計78筆	41,525.54m ²
平成16年度	唐古147番ほか13筆・鍵225番1ほか5筆 計20筆	10,546.53m ²



唐古・鍵遺跡の史跡範囲と公有化位置図

また、平成15年度には、県史跡「黒田大塚古墳」の整備を実施した。整備は墳丘北側にあったテニスコートを撤去し、墳丘と周濠の平面的な明示をおこなった。本墳は、墳丘一段目が全て削平されており、墳丘復元のデータが不足していることもあって、平面明示とした。また、墳頂部の盗掘穴は砂で埋め、養生した。この他、周濠の外側にトイレを設置するとともに、古墳築造時から現代に至る墳丘変遷の説明版を取り付けた。



黒田大塚古墳 整備状況

3. 講座

平成16年度には、以下の講座を開講した。

(1) 考古学実践講座

5回にわたり考古学実践講座を、田原本中央公民館他で開講した。この講座は、平成14年度から計10回実施してきたが、今年度は公民館の移設のため5回となった。

また、7月24日は、史跡唐古・鍵遺跡内において発掘調査体験を行った。発掘体験は、内容確認の目的で行われた第98次調査区で実施し、中近世素掘溝の掘り下げ作業を体験した。

日時	演題・内容	講師・担当	受講者
5月22日（土）	考古学とは	独立行政法人 奈良文化財研究所 考古第三調査室長 深澤芳樹	30名
6月26日（土）	唐古・鍵遺跡を学ぶ1	田原本町教育委員会 藤田三郎	27名
7月24日（土）	発掘調査体験	田原本町教育委員会 文化財保存課	26名
8月28日（土）	唐古・鍵遺跡を学ぶ2	田原本町教育委員会 豊谷和之	26名
9月25日（土）	田原本町内の遺跡	田原本町教育委員会 豊谷和之	28名



考古学実践講座（深澤芳樹氏）



考古学実践講座（発掘調査体験）

(2) 考古学実践講座 公開講座

酒野晶子氏（東大阪市民美術センター）を講師に招き、一般公開講座を開催した。参加者は44名。

日時：3月12日（土）午後2時から4時

会場：田原本青垣生涯学習センター 研修室

演題：「弥生時代の機織り」

復元した原始機を前に、弥生時代の機織技術を解説。



考古学実践講座（酒野晶子氏）



同左

(3) 親子発掘体験

唐古・鍵遺跡の発掘現場で、親子発掘体験を実施した。参加者は、親子14組32名。

日時：7月24日（土）午前10時から11時50分

会場：唐古・鍵遺跡 第98次調査地

内容：2班に分かれ、土器洗い（第98次調査出土遺物）と、第98次調査区において中近世の素掘溝の発掘を体験した。



親子発掘体験（発掘）



親子発掘体験（土器洗い）

4. 研究活動

平成12年度より唐古・鍵遺跡共同研究会を開催した。研究テーマは「唐古・鍵遺跡の古環境復元」である。尚、この成果については、別途報告書を作成する。

第1回（平成13年3月22日）

「弥生集落と壇場復元研究の課題」 寺沢 薫（奈良県立橿原考古学研究所）

「唐古・鍵遺跡の調査」 藤田三郎（田原本町教育委員会）

第2回（平成13年8月31日）

「奈良盆地の地理と唐古・鍵遺跡の立地状況」 外山秀一（皇學館大學）

「唐古・鍵遺跡の植生」 金原正明（奈良教育大学）

第3回（平成14年3月25日）

「唐古・鍵遺跡周辺の生息の小動物」 安部みき子（大阪市立大学）

「唐古・鍵遺跡周辺の魚類」 中島経夫（滋賀県立琵琶湖博物館）

「唐古・鍵遺跡周辺の昆虫」 木村史明（櫛原町昆虫館）

第4回（平成14年11月22日）

「唐古・鍵遺跡周辺の植生復原」 金原正明（奈良教育大学）

第5回（平成15年8月18日） 謝論（総括）

5. 資料の保存と管理

（1）重要文化財「埴輪 牛」の保存修理

当教育委員会では、唐古・鍵考古学ミュージアムの開館にあわせて、出土以来長らく奈良国立博物館に寄託し保管をお願いしていた埴輪牛について、当館の常設展示に組み込む計画をもつた。当館の展示としては唯一の重要文化財であり、1つの目玉的存在になるものであった。この計画のもと文化庁や奈良国立博物館、奈良県教育委員会と協議を重ね、埴輪牛を返還してもらうとともに傷んでいた脚部の修理と欠失している脚部の復元を保存修理事業としておこなうこととした。保存修理は、本町に一時返還し、平成15年度の国庫補助事業で実施した。保存修理は財団法人 元興寺文化財研究所が受託した。修理内容の詳細については、元興寺文化財研究所による別項「IV. 資料の紹介・報告 3. 資料の保存・修理報告 重要文化財 羽子田遺跡出土牛形埴輪の保存修理」を参照されたい。なお、保存修理事業終了後、奈良国立博物館に再度寄託し、ミュージアム開館直前の平成16年10月、最終的に本町に返還された。埴輪牛の展示にあたっては、ミュージアム第3室で独立したケースとし、免振台に設置した。

なお、埴輪牛の返還に先立ち、平成10年1月には当埴輪が出土した地点を発掘調査したこともあり、埴輪牛と一緒に出土した盾持ち人物埴輪や蓋形埴輪など6点も既に奈良国立博物館から返還されている。これらについては改めて報告することとする。

(2) 木製品の保存処理

平成16年度は、以下の木製品の保存処理を行った。内訳は、唐古・鍵遺跡66点、町内遺跡11点、合計77点である。木製品の保存処理は糖アルコール含浸処理法で、恒温機2台を用いて行った。また、関西保存科学工業株式会社より糖液含浸装置(IWE-300)1台を購入し、唐古・鍵遺跡第93次調査出土の大型建物柱の保存処理(国庫補助事業)を行っている。

遺跡名	次数	資料	数量	備考
唐古・鍵	13次	布巻具(1)・蓋(1)・容器(1) 容器未成品(1)・不明品(2)	6	布巻具は再処理 (昭和62年度処理済)
	19次	鉢(1)・合子(1)・容器(1)・建築材(1)・不明品(2)	6	
	20次	鉢(1)	1	
	22次	用途不明品(1)・板A(1)	2	
	23次	不明容器(1)	1	
	24次	櫛?(1)・用途不明品(1)	2	
	33次	籠柄横棒未成品(1)・平歛未成品(1)・柱(1) 豎竹(1)・用途不明品(2)・板A(2)	8	
	38次	弓(1)	1	
	74次	木錐(3)	3	
	79次	鐵曲柄(1)・合子(1)・高杯(1)・蓋(1)	4	
	82次	平歛(1)・用途不明品(1)	2	
	86次	用途不明品未成品(1)	1	農具の可能性あり
	88次	鉢の身(1)	1	
	89次	不明建葉材(1)	1	
	91次	平歛(1)・平歛未成品(1)・一本刷(2)・部材(1) 鉢の柄(1)・有頭棒(1)・用途不明品(4)	11	
	93次	糸巻具(1)・石戈柄(1)・石劍柄(1)・板A(1) 大型建物柱(1)	5	大型建物柱は3年間継続
	94次	櫛(1)・用途不明品(1)	2	
	95次	不明建葉材(1)	1	近世
	96次	不明容器(2)・有頭棒(1)・用途不明品(3)・下駄(2)	8	下駄は近世
小阪里中	1次	箱材(1)	1	
後鉢山古墳	3次	鐵櫛物(1)	1	
	4次	用途不明品(1)	1	
黒田大塚古墳	1次	笠形木製品(1)・鳥形木製品(1)	2	
宮古北		下駄(1)	1	中世
保津・宮古	14次	畜串(1)	1	
	31次	下駄(1)	1	中世
羽子田	19次	樹皮製品(1)	1	
	27次	下駄(1)	1	近代
平野氏陣屋跡	3次	円形曲物(1)	1	再処理(平成13年度処理済)
計			77点	

6. 写真資料のデジタル化と情報検索システム

(1) 発掘調査記録及び出土品の写真的デジタル化

(株)堀内カラーに委託して、以下の遺跡発掘調査及び出土品の写真についてデジタル化を行った。

調査	写真データ	デジタルデータ	備考
唐古・鍵遺跡 第93次	4×5／6×7 カラーポジフィルム153枚	C D 7枚 (pro photo CD規格)	第89次の大型建物跡の柱部を含む
後鉢山古墳群 (1号墳) 第4次	4×5 カラーポジフィルム 22枚	C D 1枚 (pro photo CD規格)	
唐古・鍵遺跡 第93次ほか	4×5 カラーポジフィルム 25枚	C D 1枚 (pro photo CD規格)	発掘速報用出土品
計	カラーポジフィルム200枚	C D 9枚	

また、これまでの遺跡発掘調査の写真デジタル化は以下の通りである。

年度	遺跡	調査	写真データ	デジタルデータ
平成12年度	唐古・鍵遺跡	第61次ほか	カラーPOジ (4×5／6×6) 500枚	C D 20枚
平成13年度	唐古・鍵遺跡	第37次ほか	カラーPOジ (4×5／6×6) 500枚	C D 21枚
平成14年度	唐古・鍵遺跡	第84次ほか	カラーPOジ (4×5) 163枚	C D 7枚
平成15年度	唐古・鍵遺跡	第91次	カラーPOジ (4×5／6×7) 125枚	C D 5枚
	計		カラーポジフィルム 1,288枚	C D 53枚

(2) 出土遺物の写真撮影

唐古・鍵考古学ミュージアムの展示品を中心する収蔵品目録の写真撮影を行った。また、重要遺物や保存処理前の木製品についても写真撮影を実施した。

遺跡	資料	撮影者	枚数	備考
唐古・鍵遺跡 ほか	弥生土器・石器ほか	亀村俊二	カラーPOジ (4×5) 92枚 カラーPOジ (6×7) 40枚	収蔵品目録
唐古・鍵遺跡 ほか	木製品ほか	佐藤右文	カラーPOジ (4×5) 50枚 モノクロネガ (4×5) 91枚	重要遺物等
計	カラーPOジ 142枚・モノクロネガ 131枚			

(3) 情報検索システムの構築

平成15年度に、文化財保存管理システム (GAMEDIOS) を凸版印刷株式会社から購入し、平成15・16年度の2ヵ年にわたって文化財管理台帳の作成を行った。台帳作成にあたっては、これまでの弥生土器や絵画土器のデジタル分を含め、新規写真撮影 (収蔵品目録分) を行い、写真1032点 (フィルム435点) と実測図 (トレース図) 367点・拓本164点のデジタル化を行った。

7. 資料の活用

平成16年度は、以下の資料を下記の機関に貸出し、公開利用した。

(1) 資料の貸出

No	貸出し先・期間	遺跡	資料名	点数	利用方法
1	文化庁 ドイツ連邦共和国 【貸出期間】 平成16年5月20日 ～平成17年3月31日	清水嵐	絵画土器片(魚・猪と戈をもつ人/大形壺) (1)・絵画土器片(鹿/大形壺)(1)・絵 画土器片(鶴と戈をもつ人/大形壺)(1)・ 絵画土器片(大型建物/大形壺)(1)	4点	海外展「日本の考古－曙光 の時代－」 【展示期間】 ライスエンゲルホルン博物 館 平成16年7月24日～平成16 年10月24日 マルテン・グロビウス・バ ウ博物館 平成16年11月20日～平成17 年1月31日
1	文化庁 独立行政法人国立博物館 奈良国立博物館 【貸出期間】 平成17年4月1日 ～平成17年5月24日	唐古・鍵	弥生中期後半盤(1)・弥生中期高杯(1)・ 弥生中期初葉鉢(1)・弥生中期甕(1)・流 水文の描かれた土器破片(1)・絵画土器(建 物/虎頭蓋)レプリカ(1)・絵画土器(櫻蘭/ 短頭蓋)レプリカ(3)・絵画土器(建物と鹿 /短頭蓋)(1)・大型蛤刃刀斧(3)・柱状片 刃刀斧(4)・扁平片刃刀斧(2)・納晶片岩 石底丁(1)・粘板岩石底丁(1)・流紋岩石 底丁(1)・總撰具(1)・石鏡(狩獵用) (5)・石劍(武器用)(5)・打製石劍(3)・ 精入石劍(輪/レプリカ)(1)・精入石劍(右 劍/レプリカ)(1)・石小刀(2)・石錐(3)・ 大型銅鏡の土製鋳型外枠(2)・銅鏡の土製鋳 型外枠(1)・逆風管(2)・大型の土製銅鏡 鋳型外枠の複製・復元品(A面外枠)(1)・ 大型の上翼鋼鋳型外枠の複製・復元品(A 面真上)(1)・大型の下翼鋼鋳型外枠の復 元品(中子)(1)・弥生後期高杯(1)・ト骨 (イノシシ)(1)・ト骨(シカ)(2)	55点	ドイツ連邦共和国開催海外 展帰国展「日本の考古－曙 光の時代－」 【展示期間】 平成17年3月23日～平成17 年5月8日
2	発掘された日本列島実 行委員会 【貸出期間】 平成16年5月17日 ～平成17年3月4日	唐古・鍵	揚鉄鉢容器(1)・ヒスイ製勾玉(大) (1)・ヒスイ製勾玉(小)(1)・揚鉄鉢 容器の蓋(弥生土器堺郡部破片)(1)	4点	『発掘された日本列島2004 ～新発見考古迷報展～』 【展示会場・期間】 ①江戸東京博物館 6月1日～7月7日 ②群馬県立歴史博物館 7月13日～8月15日 ③花巻市博物館 8月21日～9月19日 ④石川県立歴史博物館 9月25日～10月24日 ⑤奈良市美術館 10月30日～11月28日 ⑥高知県立歴史民俗博物館 12月4日～1月10日 ⑦神戸市立博物館 1月16日～2月20日 ※奈良市美術館以降は、レ プリカを展示

3	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 【貸出期間】平成16年7月6日～平成16年9月15日	唐古・鍵	弥生中期中葉壺破片（2）・弥生中期中葉広口壺破片（1）・弥生中期中葉大鉢破片（2）・絵画土器（鹿・鳥2羽）（1）・被熱土器（壺）（3）・被熱土器（器種不明）（3）・銅鐸形土器製品（1）・杓子形土器製品（1）・用途不明土器製品（1）・河（1）・焼土塊（2）・サヌカイトチップ（一括）	18点	連報展「人和を極る22」 【展示期間】平成16年7月17日～平成16年8月29日
4	大阪府立弥生文化博物館 【貸出期間】平成16年9月8日～平成17年9月7日	唐古・鍵	絵画土器（鹿/器台）（1）・絵画土器（高床建物/壺？）（1）・絵画土器（魚/壺？）（1）・絵画土器（鹿2頭）（1）・長頸壺（記号文）（3）・被熱土器（壺）（1）・壺形土器（ミニチュア）（1）・高杯形土器（ミニチュア）（1）・器台形土器（ミニチュア）（1）・送風管（1）・武器の十翼鎧型外件（1）・取瓶（高杯形土器品）（1）・銅鏡の十翼鎧型外件（1）・石鎧（武器用）（9）・打製石劍（1）・磨製石劍（3）・磨製石鎧（2）・杓子木成品（1）・高杯未成品（1）・合子（1）・合子蓋（1）・猪（1）・卜骨（シカ）（1）・ト骨（イノシシ）（1）	43点	常設展示「弥生プラザ」 【展示期間】平成16年10月5日～平成17年8月31日
5	静岡市教育委員会・登呂博物館 【貸出期間】平成16年9月16日～平成16年12月2日	唐古・鍵	被熱土器（壺）（2）・銅鏡（1）	3点	特別展示「古代建物まつり」 【展示期間】平成16年10月1日～平成16年11月30日
6	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 【貸出期間】平成17年4月5日～平成17年6月16日	唐古・鍵 清水風	V様土器（6）・VI-3様式上器（7）・環濠出土土器（14）・古墳系土器（1）・孤帝文様土器（4）・丸窓付き土器（1）・近江系土器（2）・送風管（1）・鑄型（7）・朱付着土器（1）・銅鋒形土器製品（3）・銅鏡（1）・鉄石斧管玉（1）・銅鏡（2）・鉄鎌（1）・素面鏡（1） 南漢鏡（1）	48点 1点	春季特別展「ムラの変貌」 【展示期間】平成17年4月23日～平成17年6月12日
計				175点	

（2）資料の継続貸出

No	貸出し先	遺跡	資料名	点数	利用方法
1	香芝市二上山博物館 【貸出期間】平成16年4月1日～平成17年3月31日	唐古・鍵	弥生土器壺（1）・弥生土器壺（1）・弥生土器高杯（1）・繪先形石器（1）	4点	常設展示 【展示期間】平成16年4月1日～平成17年3月31日
2	大阪府立弥生文化博物館 【貸出期間】平成16年4月1日～平成17年3月31日	唐古・鍵	土彈（2）	2点	常設展示 【展示期間】平成16年4月1日～平成17年3月31日

(3) 掲載許可資料

No	貸出し先	遺跡	資料名	点数	掲載書籍
1	発掘された日本列島展実行委員会	唐古・鍵 鉢山2号墳	褐鉄鏡容器に入れた勾玉(5)・遭跡航空写真(1) 人物埴輪と馬形埴輪	6点 1点	「発掘された日本列島2004」 「平成16年度 春季特別展」
3	(株)ジャパン通信情報センター	唐古・鍵	ヒスイ勾玉	2点	「04・連報展」増刊号
4	(株)小学館	唐古・鍵	土製誇張型出土状況(1)・焼土面焼出状況(1)・土器を納めた井戸(1) 遭跡航空写真(1)・第65次調査地全景(1)・区画溝完掘(1)・土製誇張型出土状況(2)	8点	『考古資料大綱 第10巻』 森生・古墳時代 遺跡・遭跡
5	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	唐古・鍵	唐古・鍵遭跡93次調査	1点	「連報展 大和を掘る22」
6	(株)山川出版社	鉢山2号墳	入れ墨をした馬曳きの埴輪(1) 飾り馬の埴輪(1)	2点	「歴博フォーラム 王の墓と奉仕する人々」
7	学生社	唐古・鍵	櫻闇の描かれた土器片	1点	森浩一・佐原真「考古学の世界」
8	(株)雄山閣	唐古・鍵	弥生土器	4点	西本魯弘「季刊 考古学」88
9	東京法令出版株式会社	唐古・鍵	土製誇張型	1点	「新編 ビジュアル日本史」
10	編集グループ(SURE)	唐古・鍵	櫻闇の描かれた土器片	1点	「京都学ことはじめ -森浩一12のお勉強-」
11	株式会社 岩波書店	唐古・鍵	機械道具(2)・記号文土器(6)	8点	大野晋「弥生文明と南インド」
12	益昌博物館	唐古・鍵	輪両上器(大型筒)ほか(5)・大型埴輪(1)	6点	「特別展 古代建物まつり」
13	奈良県立教育研究所	唐古・鍵	環濠(2)・桶渠・斎化米(2)	4点	「大和路の文化財」水と人間
14	国立科学博物館	唐古・鍵	褐鉄鏡容器に入ったヒスイ勾玉	1点	「特別展 繁華麗」
15	大阪吉野株式会社	唐古・鍵	絵画土器	1点	「中学社会 歴史的分野」 平成18~21年度使用
16	株式会社 岩波書店	唐古・鍵	石燃	1点	「戦争の考古学」佐原真の仕事4
17	近畿日本鉄道株式会社	羽子田1号墳 鉢山2号墳	盾持ち人埴輪(2)・牛形埴輪(1) 馬と馬子埴輪(1)	3点 1点	橿原考古学研究所 「大和の占領II」
18	日本考古学協会	唐古・鍵	ヒスイと出土遭跡	4点	「日本考古学年報」56号
19	株式会社 フィックス	唐古・鍵	櫻闇の描かれた土器片	1点	「Japan Legend Journey 幻想神話回廊」
20	有限会社 ヴュー企画	唐古・鍵	船を漕ぐ人物の絵画土器	1点	ビデオ「日本の古代(仮)」の解説音声【遺跡めぐりガイド】
21	日本放送出版協会書出版社	唐古・鍵	木製容器集合写真	1点	「古代 地域は輝いていた」
22	広川町史編さん委員会	唐古・鍵	櫻闇の描かれた土器片	1点	「広川町史」
23	株式会社 岩波書店	唐古・鍵	櫻闇の描かれた土器片	1点	「美術の考古学」佐原真の仕事3
24	(株)小学館	唐古・鍵	遭跡航空写真ほか	11点	「曙光ードイツで開催された日本考古展(仮)」

25	(株) 悅工房	唐古・鍵	櫻閣の描かれた土器片	1点	『社会科資料集 6年』
26	株式会社 篠原書房	唐古・鍵	櫻閣の描かれた土器片	1点	義江明子 「卑弥呼」を読みなおす』
27	鳥取県埋蔵文化財センター	唐古・鍵	稻束(1)・弥生中期土器集合(1)	2点	『鳥取県の考古学2』弥生時代I
28	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	唐古・鍵	環濠ほか	6点	『春季特別展 ムラの変貌』
29	中川恵子	唐古・鍵	褐鉄鉢容器とヒスイ勾玉	1点	『道・ゆく・なら』
30	(財) 馬事文化財団	笠鉢山2号墳	馬と馬子埴輪(集合)	1点	『春季特別展 はにわうま』
31	(株) 岩波書店	唐古・鍵	鶴頭形土製品	1点	先史日本を復元する4 『船作伝来』
32	(株) ポプラ社	唐古・鍵	復元櫻閣(1)・櫻閣の描かれた土器片(1)	2点	これだけは知っておきたいシリーズ19『古代日本の大常識』
33	(株) シティーエフェムコミュニケーションズ	唐古・鍵	復元櫻閣	1点	『道・ゆく・なら』
34	(株) 学生社	唐古・鍵	鳥装の人物の絵画土器	1点	川村邦光『卑弥呼の系譜と祭祀』
計				89点	

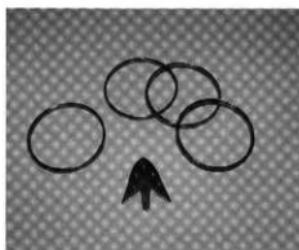
8. 資料の製作

平成16年度は、以下の複製品・復元品を製作した。

委託請負人	内容	資料名	点数	原品・参考資料
(株) スタジオ三十三	複製品製作	絵画土器(船)	1	原品: 清水風遺跡 第1次調査 (奈良県立橿原考古学研究所附属博物館)
		絵画土器(建物)	1	
(有) 和銅窓	復元品製作	銅鏡	10	唐古・鍵遺跡 第69次調査出土品
		銅鏡	3	唐古・鍵遺跡 第33次調査出土品
		巴形銅器	1	唐古・鍵遺跡 第23次調査出土品
		銅戈	1	唐古・鍵遺跡 第50次調査出土絵画土器 瓜生堂遺跡出土品
		絵画土器線画 アイアンワーク	20	唐古・鍵遺跡 第1次調査出土絵画土器 清水風遺跡 第2次調査出土絵画土器



絵画土器の複製品(船・建物)



銅鏡・銅鏡の復元品

9. 刊行物一覧

平成16年度は以下の刊行物を発行した。また、本年度は関係諸機関より、1,039冊の寄贈図書を受領した。

『唐古・鍵考古学ミュージアム 展示図録』

『展示案内』(リーフレット)

『県史跡 黒田大塚古墳』(リーフレット)

『田原本町埋蔵文化財年報13 平成16年度』

『ミュージアムコレクション Vol.1～4』(解説シート)

10. ボランティア組織

平成16年4月10日に、自主運営のボランティア組織「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」(愛称：唐古・鍵支援隊)が設立され、下記の活動を行っている。

(1) 設立の趣旨

唐古・鍵遺跡は、わが国を代表する弥生時代の環濠集落で、考古学や歴史研究において大きな役割を果たしてきました。また、長期にわたる発掘調査により、これまで大規模な環濠集落の構造が明らかとなり、様々な出土遺物からは当時の文化を知ることができます。こうした唐古・鍵遺跡は、平成11年に国の史跡に指定され、遺跡公園として整備が進められています。また、平成16年には、唐古・鍵考古学ミュージアムが開館し、これまで出土した豊富な遺物が展示されます。

本会は、唐古・鍵遺跡や弥生時代に理解と愛着を深め、その保存と活用を支援することを通じて、地域社会に貢献することを目的とします。また、活動に当たっては自発的な意志によるボランティア精神を尊重し、自主運営の会とします。

(2) 主な活動内容

I. 「唐古・鍵考古学ミュージアム」展示ボランティア・ガイドの運営

II. 「唐古・鍵考古学ミュージアム」、「唐古・鍵支援隊」の広報活動

- ① 「唐古・鍵考古学ミュージアム」・「唐古・鍵支援隊」ホームページの編集・運営支援
- ② 講演会の受付など、文化財保存課主催事業の支援
- ③ 外部団体との交流

III. 「唐古・鍵支援隊」会員を対象にした学習会、講演会などの企画

- ① 講演会（2回以上／年）の企画
- ② 考古学体験教室の企画

(3) 平成16年度の活動内容

【運営委員会】

	日時	会場	議題
第1回	4／17(土)	中央公民館	運営委員会日程決定、事務局員、事務局長承認
第2回	5／15(土)	中央公民館	事務局員追加、会計監査承認、NPO助成金申請報告
第3回	6／19(土)	中央公民館	NPO助成金選考結果報告、会の愛称募集結果報告 展示ボランティア・ガイド一般募集要綱決定
第4回	7／17(土)	中央公民館	展示ボランティア・ガイド・マニュアル作成
第5回	8／21(土)	中央公民館	展示ボランティア・ガイド一般募集、入会案内検討
第6回	9／18(土)	中央公民館	展示ボランティア・ガイド応募者数報告、研修資料検討
第7回	10／16(土)	町民ホール	展示ボランティア・ガイド運営準備
第8回	11／20(土)	中央公民館	展示ボランティア・ガイド登録者数報告、2次募集決定
第9回	12／18(土)	青垣生涯学習センター	今期後半の活動予定・来期総会内容決定
第10回	1／15(土)	青垣生涯学習センター	来期活動方針概略など討議
第11回	2／19(土)	青垣生涯学習センター	来期活動内容、ガイド専門部会準備
第12回	3／18(土)	青垣生涯学習センター	来期の活動方針・役員・総会式決定

【広報活動】

	掲載・メディア	内容
8月	『広報 たわらもと』8月号	展示ボランティア・ガイド募集
9月	『広報 たわらもと』9月号	「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」紹介
	『奈良新聞』(9月14日)	「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」紹介
12月	インターネット	「唐古・鍵支援隊」ホームページ開設
1月	『サンケイ新聞』(1月19日)	ボランティア・ガイド活動紹介
	『朝日新聞』(2月20日)	「唐古・鍵支援隊」遺跡見学、清掃活動
2月	『奈良新聞』(2月20日)	「唐古・鍵支援隊」遺跡見学、清掃活動
	NHKテレビ(2月21日放送)	「唐古・鍵支援隊」遺跡見学、清掃活動
	『奈良新聞』(3月2日)	「唐古・鍵支援隊」活動紹介
3月	NHKラジオ番組「ふるさと自慢うた自慢」	「唐古・鍵遺跡」紹介
	『歴史の旅人』歴史街道季刊誌 春号	ボランティア・ガイド案内

【展示ボランティア・ガイド活動】

展示ボランティア・ガイドの登録は、平成16年度47名（うち支援隊会員22名）で、開館日全てを対応した。この実績や研修会等については、「Ⅲ. 唐古・鍵考古学ミュージアム 7. 展示ボランティア・ガイド」の項において、報告しているので参照されたい（70頁）。

【講演会・学習会】

日時	演題	講師・主催
4／10（土）	稻と水と精靈と－唐古・鍵もう一つの源流－	奈良県教育委員会 寺澤 薫
6／19（土）	展示室ディスプレイ裏話	（株）乃村工藝社 井上慎人／辻本弘司
7／17（土）	最新調査成果	田原本町教育委員会 豆谷和之
2／19（土）	唐古・鍵遺跡見学会	「唐古・鍵支援隊」

【その他】

項目	概要
5～7月	会の愛称募集・審査・決定
10月	唐古・鍵遺跡現地視察
2月	来年度事業方針説明会 唐古・鍵遺跡清掃活動 唐古・鍵遺跡の公園整備計画の説明



運営委員会（中央公民館）



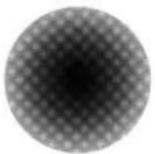
唐古・鍵遺跡清掃活動



ボランティアガイド研修会



考古学実践講座の受付



III. 唐古・鍵考古学ミュージアム

1. 施設の概要

(1) 田原本青垣生涯学習センター（ホール・公民館・ミュージアム・図書館）の概要

所在地 奈良県磯城郡田原本町坂手233-1

面 積 敷地面積 約21,000m²

延べ床面積 13,447m²

建物面積 8,612m²

大ホール（801席） 3,756m²

図書館 3,447m²

公民館（工作室他） 1,687m²

唐古・鍵考古学ミュージアム（常設）	347m ²	2階
-------------------	-------------------	----

特別展示（会議室2を転用）	67m ²	2階
---------------	------------------	----

ロビー展示	5m ²	1階
-------	-----------------	----

事務室（共用 学芸用机4） 140m²

倉庫（共用）・機械室・ポンベ庫 230m²

駐車場 183台

工 期 平成14年9月13日～平成16年9月30日

総事業費 約73億3,000万円（用地・設計料・備品等含む）

(2) 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要

名 称 唐古・鍵考古学ミュージアム

展示工事費 約215,145千円

展示設計者 東畠建築事務所

展示施工者 （株）乃村工藝社

受付カウンター 7m²

給湯室 3.2m²

バックヤード 2室 7.36m²

消化設備 フロンガス消化

フロアー フローリング・強化ガラス（第1室 床下展示）

映 像 大型三面スクリーン映像（「唐古・鍵ムラの風景」・「弥生の風景」）3分35秒

大型建物映像（「大型建物跡の発掘」・「大型建物再現（CG）」）3分

実験考古学映像（「弥生土器をつくる」3分45秒・「木器をつくる」4分45秒・「剣鋒をつくる」7分）

グラフィック 118枚（第1室53枚、第2室58枚、第3室7枚）

ケース

展示室	ケース	数量	寸法(単位mm)		
			W	D	H
第1室	壁面展示大ケース(エアータイプケース)	2	5825	895	1755
	壁面展示大ケース付帯ケース(環境・絵図)	2	1500	250	695
	壁面展示ケース(人型建物柱・エアータイプケース)	1	800	890	2235
	壁面展示小ケース(史実)	1	1200	450	720
	独立中央ケース(絵画上器・人物模型)	1	680	2680	1250
	模型展示台(引出ケース4付き)	1	2700	1813	700
床下展示	ガラス(1213×1180/T12×1、T9×2の3枚構造)	14	9600	2500	-
	ガラス(1213×580/T12×1、T9×2の3枚構造)	4			
ゲート	壁面展示ケース	2	600	283	600
第2室	壁面展示大ケース(エアータイプケース)	4	3300	1600	2080
	壁面展示大ケース(エアータイプケース)	3	3250	930	2080
	独立中央八角形ケース(模型台付・引出ケース8付き)	1	2570	2570	1070
	独立小ケース(映像モニター付)	3	1200	420	630
第3室	壁面展示大ケース	1	1350	400	700
	壁面展示ケース(牛埴輪・免震装置付き)	1	1480	1090	1500
	壁面展示ケース(家形埴輪)	2	1010	910	2080
	壁面展示ケース(馬形埴輪1)	1	810	930	2090
	壁面展示ケース(馬形埴輪2)	1	830	930	2090
	壁面展示ケース(円筒埴輪・木製品)	1	3040	930	2090
	壁面小ケース(報鏡)	3	430	450	840
ロビー	壁面小ケース(人物埴輪)	1	700	460	2100
	スポット展示ケース	3	460	440	475
	ロビー展示ケース①(阪手車)	1	1210	615	2115
	ロビー展示ケース②(兄弟土器)	1	1210	575	2060
	ロビー展示ケース③(壺形埴輪)	1	1200	1160	2400
	ロビー展示ケース④(家形埴輪)	1	1170	790	2077
	ロビー展示ケース⑤(絵画土器の風景)	1	1770	580	470

特別展・企画展用備品

品名	数 量		寸法(単位mm)		
	既設	新規	W	D	H
ウォールケース	0	2	2400	1000	2400
半のぞきケース	1	2	1000	1800	900
斜のぞきケース	4	0	1500	700	700
四面ガラスケース	1	1	900	900	2100
演示台	0	2	900	900	450
受付用机	0	1	1600	700	700

2. 開館に至る経緯と名称

(1) 開館に至る経緯と経過

平成11年4月	(仮称) 総合生涯学習センター建設計画プロジェクトチーム設置
平成12年3月	町議会に (仮称) 総合生涯学習センター建設特別委員会設置
平成12年4月	(仮称) 総合生涯学習センター建設準備室(平成14年4月建設室に改名)設置
平成12年9月	設計業者をプロポーザル方式で決定
平成12年12月	(仮称) 総合生涯学習センター建設検討委員会設置
平成13年3月	基本設計完了
平成13年7月	展示室の打合せ開始
平成14年3月	実施設計完了
平成14年9月	建築工事着工
平成15年5月	臨時職員(学芸)採用
平成15年6月	文化財資料展示工事着工
平成16年9月30日	竣工(展示造作・造形・演示・グラフィック・映像等打ち合わせ 計97回)
平成16年11月11日	センター落成式
11月16日～21日	町民内覧会(無料開放) ミュージアム見学者 1,397名
平成16年11月24日(水)	開館



田原本青垣生涯学習センター(写真中央がミュージアム)



ミュージアム・エントランス

(2) ミュージアムの名称

唐古・鍵遺跡は、日本を代表する弥生遺跡として知名度が高く、考古学や古代史関係の書籍や教科書には必ずその名前が登場する。本ミュージアムは、唐古・鍵遺跡の出土品を中心に構成され、唐古・鍵遺跡の全体像や、弥生文化の具体的な内容を立体的に展示する。

また、単なる考古資料の展示にとどまらず、「考古学」という学問を通して、弥生の情報発信基地になることを目指し、「唐古・鍵考古学ミュージアム」という名称とする。

3. 利用案内

所在地：〒636-0247

奈良県磯城郡田原本町阪手233-1

田原本青垣生涯学習センター内

T E L : 0744-34-7100

F A X : 0744-32-8770

U R L : <http://www.karako-kagi-arch-museum.jp/>

開館時間：午前9時から午後5時まで

(入館は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日

12月28日～1月4日

観覧料：

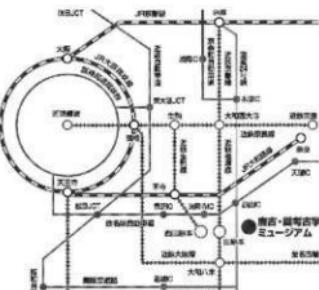
	常設展		特別展
	個人	団体	
大人	200	150	町長がその都度定める額
高校生・大学生	100	50	

*15歳以下は無料 団体は20名以上

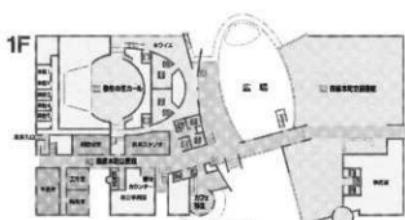
交 通：近鉄田原本駅下車 徒歩20分

西名阪自動車道「郡山」インターから

約30分



交通位置図

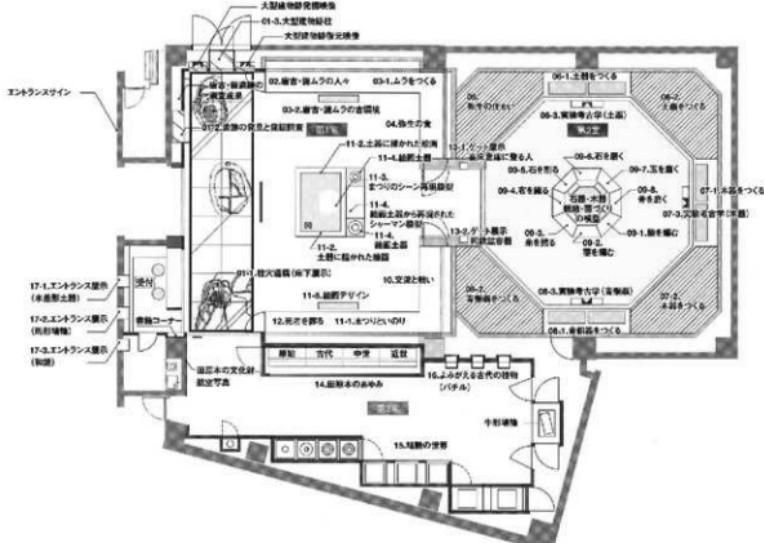


ミュージアム位置図

4. 展示

(1) 展示の方針

- 展示品は基本的に田原本町の所有品で構成し、一部を他機関・個人（3件）から借用する。
- 実物資料の展示を基本とし、不足分のみをレプリカとする。
- デリケートな資料が多いためケース展示とし、重要文化財も展示可能なケース仕様とする。
ただし、展示品と見学者の距離は近くし、一点一点の実物資料をじっくり観察できるようにする。
- 弥生遺物の質や量を実感できるように実物資料を多く展示し、解説文やキャップションは最小限とする。また、展示品の造形美を鑑賞していただくことを主眼とし、説明文は少なくする。
- わかりにくい部分については、「模型」や「映像資料」によって見学者の理解を助ける。
- 展示の解説には、ボランティア・ガイドを登用する。
- 唐古・鍵遺跡の展示は、時代的な流れに主眼をおくのではなく、ムラの風景を再現する。
また、弥生の環境や生活の全般がわかる展示を試みる。
- 唐古・鍵遺跡だけでなく、田原本町の通史（重要文化財「埴輪牛」）も展示する。



ミュージアム展示構成配置図

(2) 展示室の概要

常設展は3つの展示室から構成され、展示総面積は347m²、展示品の総点数は948点である。このうち複製品は11点、模型は7点で、実物の展示が多いことが本ミュージアムの特徴である。

3つの部屋で構成される展示室の内容は、第1室・第2室が唐古・鍵遺跡をテーマとする「唐古・鍵の弥生世界」、第3室が田原本町の通史を考古学的に概観する「田原本のあゆみ」となっている。また、展示室のエントランスや田原本青垣生涯学習センター内には、展示室の他に8箇所の展示ケース（ロビー展示）を設置し、弥生土器や形象埴輪などを展示する。

◎唐古・鍵の弥生世界◎

第1室・第2室の「唐古・鍵の弥生世界」は、唐古・鍵遺跡の環濠集落をイメージして設計されている。第1室は環濠外側の世界を、第2室は環濠内側のムラの生活や「もの作り」をテーマとする。

◆第1室◆

環濠内外の環境や、周辺地域との交流、精神世界をテーマとし、「遺跡の発見と発掘調査」・「唐古・鍵ムラの人々」・「ムラをつくる」・「弥生の食」・「交流と戦い」・「まつりといのり」・「死者を葬る」の7つのコーナーで構成される。

また、エントランスの床下には、第74次調査で検出された大型建物跡の発掘現場を再現し、出土した大型建物の柱や、大型建物復元の映像資料を展示する。



第1室 全景

遺跡の発見と発掘調査：遺跡発見から現在にいたる調査の経緯を、パネルを利用して紹介する。また、末永雅雄博士遺愛のカメラや、第1次調査の発掘調査報告書も展示する。

唐古・鍵ムラの人々：第23次調査で検出された人骨の復顔模型から、唐古・鍵ムラの弥生時代人を推定する。また、装飾品や人形土製品を展示し当時の装いをイメージする。

ムラをつくる：唐古・鍵遺跡において、ムラが誕生した頃の土器や、環濠の掘削に使われた道具類を展示する。また、小型のケースでは、唐古・鍵遺跡出土の動物や昆虫類を展示し、ムラの環境を復元する。

弥生の食：稲作や植物採集、漁撈・狩猟に使った道具類や、食料となった植物・動物遺存体を展示する。特に、植物・動物遺存体の展示にはイラストを多用し、見学者の理解を助ける。

交流と戦い：日本各地から運ばれた土器や、海浜部からもたらされた海産物を通じて、当時の交流を考える。また木製の楯や、石鎧・石剣など戦いの道具も展示する。

まつりといのり：まつりに使われた卜骨や土製品を展示する。また、唐古・鍵遺跡に特徴的な絵画土器を、引出ケースを使って多数展示し、第1室の中央には、絵画土器に基づいて復元した「まつり風景」やシャーマンを模型を使って再現する。

死者を葬る：小児用の土器棺や、墓に供えた土器を展示する。



第1室 弥生の食



第1室 まつりといのり



第1室 まつりの風景



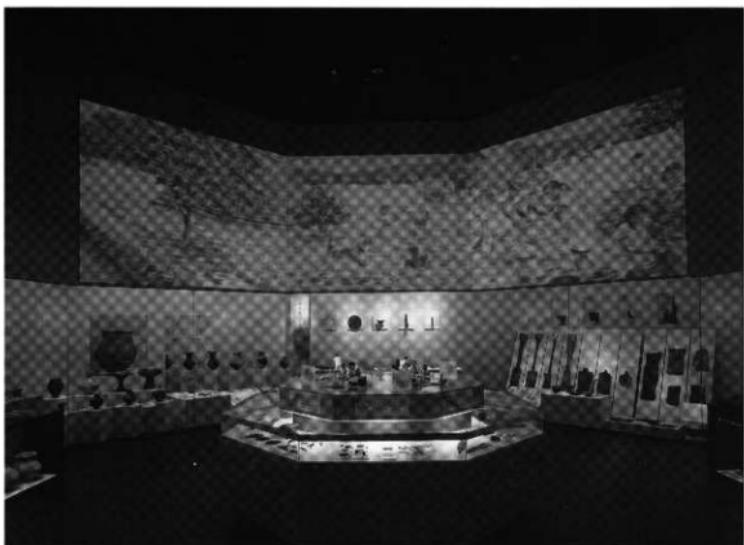
第1室 まつりの風景

◆第2室◆

唐古・鍵ムラ内側での生活や「もの作り」(手工業生産)をテーマとし、「弥生の住まい」・「土器をつくる」・「木器をつくる」・「青銅器をつくる」・「籠を編む」・「藁を編む」・「糸を撚る」・「布を織る」・「石を割る」・「石を磨く」・「玉を磨く」・「骨を磨く」の13コーナーで構成される。また、中央展示ケースには、8ヶ所の引出展示(収蔵展示)を配置し、「さまざまな打製石器」・「リサイクルされた石器」・「石廐丁の製作工程」・「さまざまな石廐丁」・「骨角器の製作工程」・「さまざまな紡錘車」を展示し、多彩な「もの作り」の実態を示す。

なお、第2室では壁面を大型三面スクリーンとして利用し、映像資料を放映する。映像の内容は二部で構成され、第1部は唐古・鍵ムラの最盛期のイメージを導入部とし、ムラ内部での「もの作り」の様子をイラストによって再現する。第2部はスクリーンセイバーを発展させた技術を用い、弥生時代の環境をイメージした映像に、絵画土器の線画を挿入して構成する。

また、各展示コーナーには小型のビデオを設置し、土器・木器・青銅器の製作工程を映像で紹介するとともに、製作実験で使用した道具類や、完成した復元品をビデオ下のケースに展示する。



第2室 全景